

大 曾 根 駅 地 区

バリアフリー基本構想

平成21年3月

名 古 屋 市

大曽根駅地区バリアフリー基本構想

《 目 次 》

I	基本構想の背景と目的・目標年次	1
1	背景と目的	1
2	目標年次	2
II	基本構想の位置づけと策定体制	3
1	基本構想の位置づけ	3
2	上位・関連計画等	4
3	構想策定のための視点	6
4	策定体制	6
III	地区現況の把握	7
1	地区の現況	7
2	重点整備地区の範囲及び生活関連経路	11
IV	整備方針の検討	13
1	基本理念	13
2	整備等の基本方針	14
V	整備計画（特定事業計画等）	16
1	公共交通特定事業等	16
2	道路特定事業等	17
3	交通安全特定事業	18
4	その他の事業	18
VI	整備計画以外の事業	19
1	公共交通事業	19
2	都市公園	20
VII	整備内容	21
VIII	人にやさしいまちづくりに向けて	25
	参考資料	27

I. 基本構想策定の背景と目的・目標年次

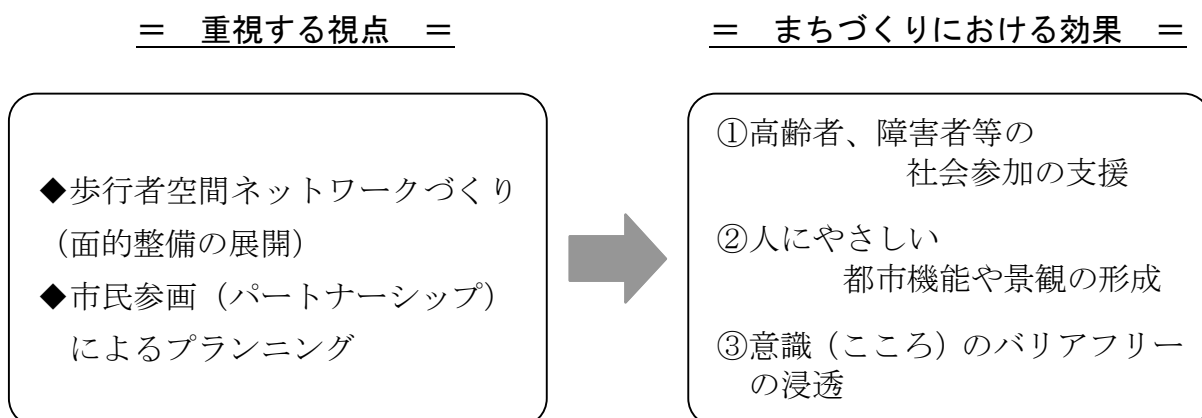
1. 背景と目的

今日の急速な高齢社会の到来と、ノーマライゼーションの理念の浸透により、高齢者や障害者をはじめとするすべての人が、自らの力で社会参加ができる環境整備の必要性が高まってきています。

こうしたなか、国は平成 12 年に「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律（交通バリアフリー法）」を制定し、平成 17 年には「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方をふまえた施策を推進するための「ユニバーサルデザイン政策大綱」をとりまとめました。そして、交通バリアフリー法施行後 5 年が経過した平成 18 年には、「ユニバーサルデザイン政策大綱」の施策の 1 つである「一体的・総合的なバリアフリー施策の推進」のために、ハートビル法と交通バリアフリー法を統合・拡充した「高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」が施行されました。

本市では、これらの法や基本方針等に基づくとともに、「名古屋市基本構想」、「名古屋新世紀計画 2010」及び“人にやさしいまち名古屋”を実現するための「福祉都市環境整備指針」等に即した形で、重点整備地区を選定し、当該地区の旅客施設並びに周辺の歩行者空間のバリアフリー整備の方策を明らかにするため、「バリアフリー基本構想」を策定することとしました。

またこの基本構想は、高齢者、障害者等を含むすべての市民が互いの理解を深め合い、ともに手を携える市民参加型のまちづくりを実践しながら、地区の歩行者空間ネットワークづくりを誘導・促進し、①高齢者、障害者等すべての人々の社会参加、②人にやさしい都市機能や都市景観の形成、③意識(こころ)のバリアフリーの浸透をねらいとするものです。



◆ 重点整備地区の選定調査

本市域内における、1日の平均乗降客数5,000人以上の旅客施設を基点として、官公庁施設・福祉施設等、高齢者、障害者等が生活上利用する施設や周辺経路等のバリアフリー化を重点的・一体的に進めていく地区として定量的、定性的に評価し、現地調査を実施した上で、大曽根駅地区を重点整備地区に選定しました。

大曽根駅地区（本構想対象地区）の特徴
・ 旅客施設の結節点としての機能が充実している（交流拠点としての重要な地区である） ・ 旅客施設の利用者数が多い ・ 周辺に多数の公営住宅が立地している（高齢者・障害者への配慮が必要である） ・ 周辺に徳川園・ナゴヤドーム・商業施設等の集客数の多い施設が立地している ・ 各旅客施設については、一定の整備が行われているが、路線間の経路や案内表示等、総合的なバリアフリー化がなされていない

2. 目標年次

事業の内容によって、整備の目標年次を次のように区分します。

ア 平成22年度までに整備するもの

イ 平成23年度以降できるだけ早い時期（概ね平成25年度）の整備を目指すもの。

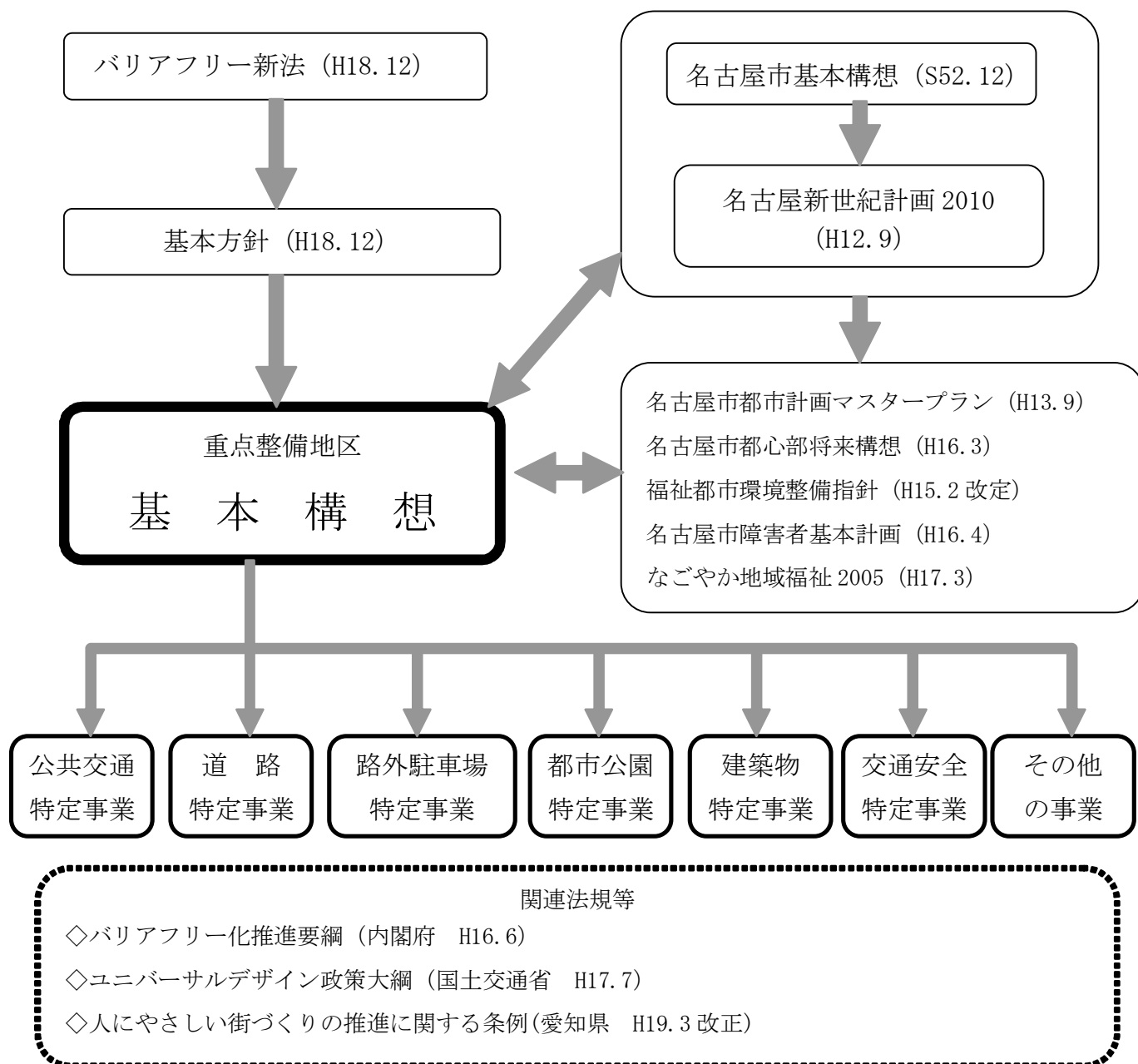
また、ソフト事業については、目標年次にかかわらず、長期的・継続的に実施していきます。

Ⅱ. 基本構想の位置づけと策定体制

1. 基本構想の位置づけ

平成 18 年に施行された「バリアフリー新法」では、地域の重点的・一体的なバリアフリー化の推進は市町村主導で実施するものとされ、バリアフリーの観点に基づくまちづくりのあり方を、市民や各種事業者具体的に示すことが求められています。

この基本構想は、関連法規に基づくとともに、「名古屋市基本構想」、「名古屋新世紀計画 2010」及び「福祉都市環境整備指針」等に即し、高齢者、障害者等の計画段階からの参加を得て、重点整備地区における旅客施設、建築物等及びこれらの間の経路の一体的なバリアフリー整備の方策を明らかにするものです。



2. 上位・関連計画等

(1) 福祉のまちづくりに関連する計画

計画名	概 要
名古屋新世紀計画 2010	◇市がめざすべき 8 つの都市像のなかに「福祉・安全都市」を位置づける。 ※ また、部門別計画の「市街地整備」においても、総合的な交通政策の推進としてバリアフリー化の推進を課題としている。
名古屋市都市計画マスタープラン	◇人にやさしく安全で快適な交通体系の形成 ・魅力あふれる歩行者空間づくり ・交通安全対策の推進 ・公共交通機関などのバリアフリー化の推進
名古屋市都心部将来構想	◇都心まちづくりの基本方針 ・歩いて楽しい空間づくり ・人や環境へのやさしさづくり ◇土地利用ビジョン ・人の流れ・溜まりを生み出す空間整備 ◇交通ビジョン ・人にやさしい高質な都市空間の形成
福祉都市環境整備指針	◇福祉のまちづくりの基本理念 ①人間性が尊重された生き生きとしたまち ②人にやさしい安全・快適環境のまち ③共に生き、共に築く魅力的なまち ◇福祉のまちづくりの推進方策 ①福祉のまちづくりをすすめるための仕組みづくり ・パートナーシップによるまちづくり整備 ・当事者らによる検証システムの確立 ・「福祉のまちづくり推進委員会」を中心とした事業の進行管理 ②都市施設整備の推進 ・総合的かつ面的な整備の展開 ・公共的建築物、道路、公園、公共交通機関の整備 ・関連事業の推進とその成果の活用 ③心のバリアフリーの推進 ・広報・啓発の推進 ・研修事業・教育施策との連携 ・地域福祉の推進、ボランティアの育成・支援

名古屋市障害者基本計画	◇「障害者基本法」に基づく、本市の障害者計画 ①障害と障害者に対する市民の正しい理解の促進 ②障害者の地域生活や生活設計の支援 ③共に生きる地域づくりの推進 ・福祉環境整備の促進 ＊すべての人が利用しやすい都市環境整備の促進 ＊ハード整備を補完する「人による援助」の充実 ＊移動円滑化のための面的な整備の推進 ④社会参加の支援と推進
なごやか地域福祉 2005	◇様々な生活課題にきめ細かく対応するため地域全体で取り組む“「仕掛け」と「仕組み」づくり”と“福祉サービスを利用しやすい環境づくり”の促進 ①共通認識づくり ②新たな担い手の育成、新たな体制づくり ③福祉サービスが活かされる地域づくり ～利用しやすい福祉の環境づくり～ ・福祉サービスのきめ細やかな提供 ・ユニバーサルデザインの視点に立った都市環境整備

(2) 大曽根駅地区の整備に関連する計画

計画名	概 要
名古屋新世紀計画 2010	◇総合駅の機能を強化し、駅前広場や駐車場を整備する。また、市街地再開発事業を促進し、商業集積とともに住宅供給を図る。
名古屋市都市計画マスタープラン	◇交流拠点 交通結節点としての立地特性および大規模集客施設を活かし、研究開発機能や生産機能との調和をはかりつつ商業・文化拠点の形成をすすめる。
名古屋市地下街基本方針	◇地下街の防災性並びに歩行者の安全と円滑な通行の確保及び向上を図る。 ※ 地下街の新增設、地下街とビル地下との接続のほか、公共地下歩道や店舗整備の要件などについて技術的基準を示す。
名古屋市地下空間サイン整備ガイドライン	◇地下空間を利用する歩行者にとってわかりやすい案内、地下空間全体における統一的かつ連続的なサインシステムの構築を図る。 ※ 地下街における公共地下歩道等を通行する歩行者が円滑に移動できるよう、望ましい整備内容を示す。

3. 構想策定のための視点

この基本構想は、「バリアフリー新法」の理念に基づき、次の視点に立って策定するものです。

◆ 歩行者優先のまちづくり（まちの回遊性を高める）

高齢者や障害者等の社会参加とその活動の自由を保障するため、ハード・ソフトの両面からだれもが使いやすく、移動しやすい歩行者空間ネットワークをめざします。

◆ 市民・関係事業者等との連携（パートナーシップによるまちづくりを進める）

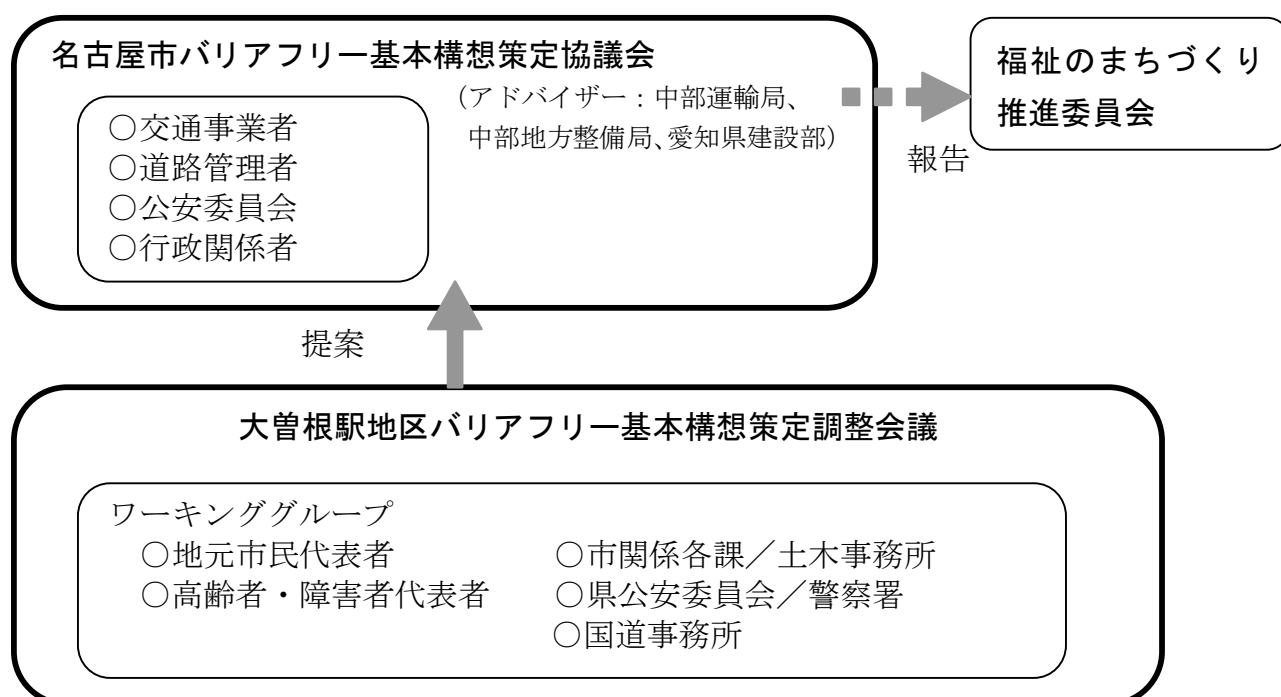
公共交通事業者、道路管理者、公安委員会等と十分に協議し、各機関の協力を得ることはもとより、地区に関連する各種整備計画や事業との連携を図ります。

◆ 市民参画の原則（ユーザーの視点を尊重する）

当事者である高齢者、障害者、地元市民等の参画を進めることにより、利用者の意見を十分に反映します。

4. 策定体制

本市では、市民の意見を反映するとともに関係事業者との協議を進めるために、次に示す「名古屋市バリアフリー基本構想策定協議会」及び「大曽根駅地区バリアフリー基本構想策定調整会議」を設置し、検討を行いました。

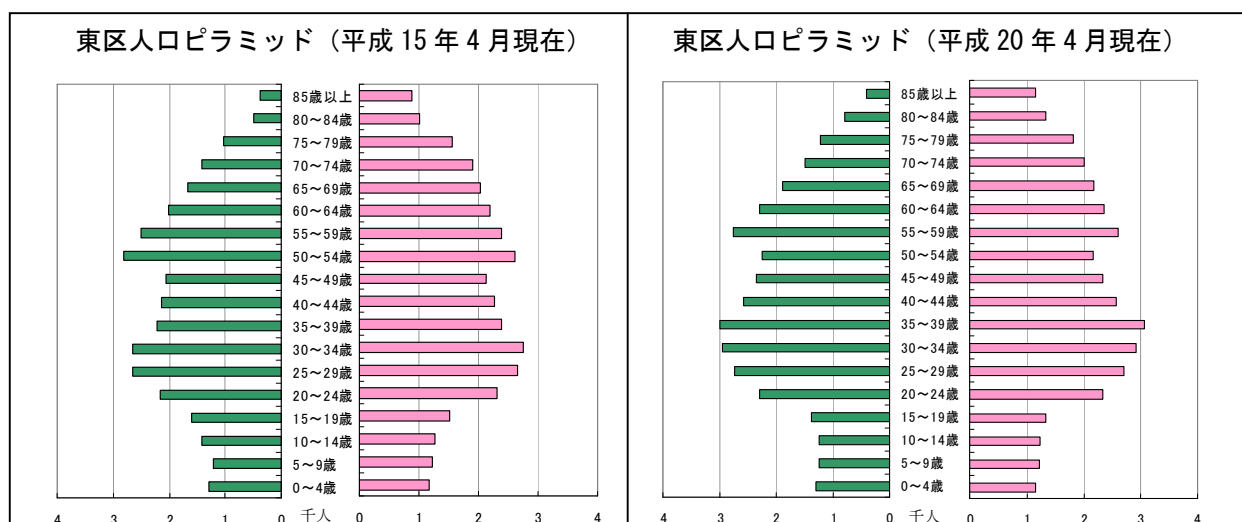
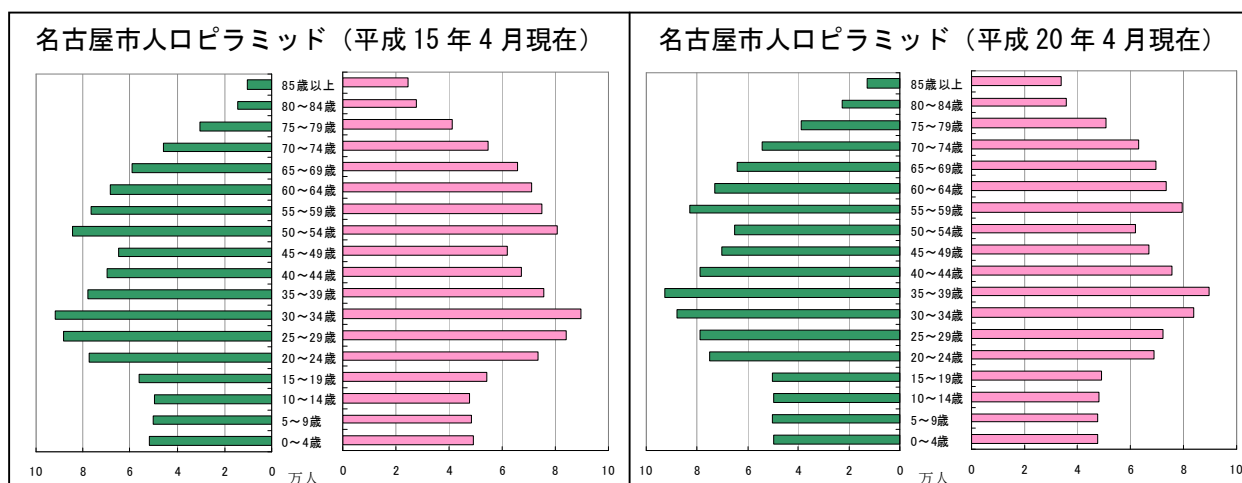


Ⅲ. 地区現況の把握

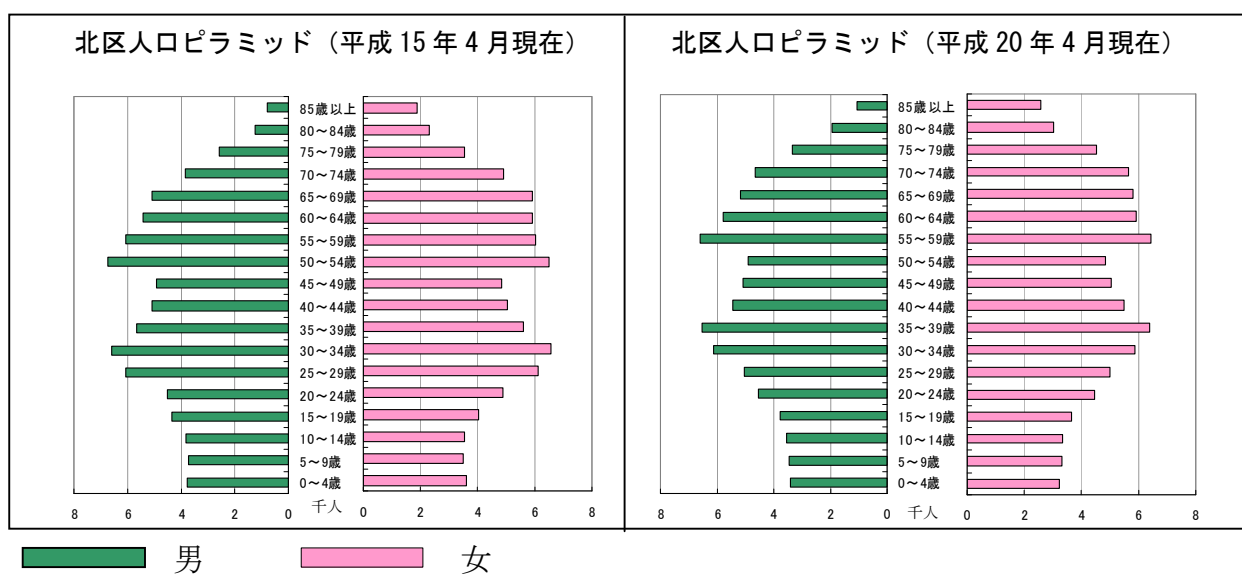
1. 地区の現況

(1) 高齢者人口等の状況

下図の人口ピラミッドのとおり、急速な少子・高齢化は本市においても例外ではなく、東区・北区においても同様に進行しています。これは、社会基盤整備においてバリアフリー配慮の必要性が高まってきていることも同時に示すものです。



男 女



◆高齢化率

下表のとおり、全市同様高齢化率が上昇しています。

〈名古屋市／東区、北区の人口推移及び高齢化率〉

（単位/人）

区 分		平成 15 年 4 月 現在(高齢化率%)	平成 20 年 4 月 現在(高齢化率%)
名古屋市	全 人 口	2, 183, 637	2, 236, 844
	65 歳以上	374, 666 (17. 1%)	445, 959 (19. 9%)
東 区	全 人 口	66, 776	70, 863
	65 歳以上	12, 365 (18. 5%)	14, 338 (20. 2%)
北 区	全 人 口	166, 497	165, 686
	65 歳以上	32, 131 (19. 3%)	37, 779 (22. 8%)

◆障害者数

〈名古屋市／東区、北区の障害者数〉

(単位/人)

区 分				14 年度末	19 年度末
名古屋市	障害者数			83, 049	100, 072
	区分	身体障害者		67, 678	78, 414
		内 訳	視覚	5, 569	5, 877
			聴覚	5, 385	5, 911
			音声・言語・そしゃく	878	969
			肢体	36, 460	41, 896
			内部	19, 386	23, 761
		知的障害者		9, 742	11, 921
		精神障害者		5, 629	9, 737
東 区	障害者数			2, 347	2, 913
	区分	身体障害者		1, 936	2, 346
		内 訳	視覚	168	184
			聴覚	149	180
			音声・言語・そしゃく	20	27
			肢体	1, 034	1, 203
			内部	565	752
		知的障害者		273	322
		精神障害者		138	245
北 区	障害者数			7, 159	8, 601
	区分	身体障害者		5, 830	6, 795
		内 訳	視覚	504	523
			聴覚	477	560
			音声・言語・そしゃく	81	88
			肢体	3, 168	3, 600
			内部	1, 600	2, 024
		知的障害者		790	977
		精神障害者		539	829

（２）交通施設等の状況

大曽根駅は複数の旅客施設の結節点となっており、周辺には徳川園・ナゴヤドーム・商業施設等が点在しています。

◆鉄道・バス等

鉄道施設については、地区のほぼ中央で JR 大曽根駅、名鉄大曽根駅、地下鉄大曽根駅（名城線）、ガイドウェイバス（ゆとりーとライン）大曽根駅が結節しており、4 駅で 1 日約 9 万 7 千人の乗降客がある本市の交流拠点となっています。また、地区東部には地下鉄ナゴヤドーム前矢田駅（名城線）、ガイドウェイバス（ゆとりーとライン）ナゴヤドーム前矢田駅があり、エリア内の 6 つの鉄道施設を合わせると 1 日約 10 万 6 千人の乗降客があります。

バス施設については、大曽根駅に市バスのバスターミナルがあるほか、周辺に多くの降車場、路上停があります。

当該地区については、ナゴヤドーム、徳川園等不特定多数が利用する施設が分布しており、駅の東には、イオンショッピングセンター、メッツ大曽根等、西には、オズガーデン・オゾンアベニュー・オズモール等の商業施設が立地しています。また、周囲には多数の公営住宅があります。

◆道路及び地下広場

東西に走る環状線、南北に走る国道 19 号、赤荻町線沿線には、生活関連施設が立地し重要な移動経路となっています。しかしながら、歩道幅員は確保されているものの違法駐車・駐輪や看板等のはみだしなどにより、円滑な歩行移動に支障をきたしている箇所が見受けられます。

大曽根駅地下広場については、地下鉄から他の交通機関との乗り換えの際に、主要な移動経路となっています。また、駐車場や駐輪場を併設しており、周辺の地域に移動する際の重要な空間となっています。しかし、案内サインがわかりづらい状況にあります。

2. 重点整備地区の範囲及び生活関連経路

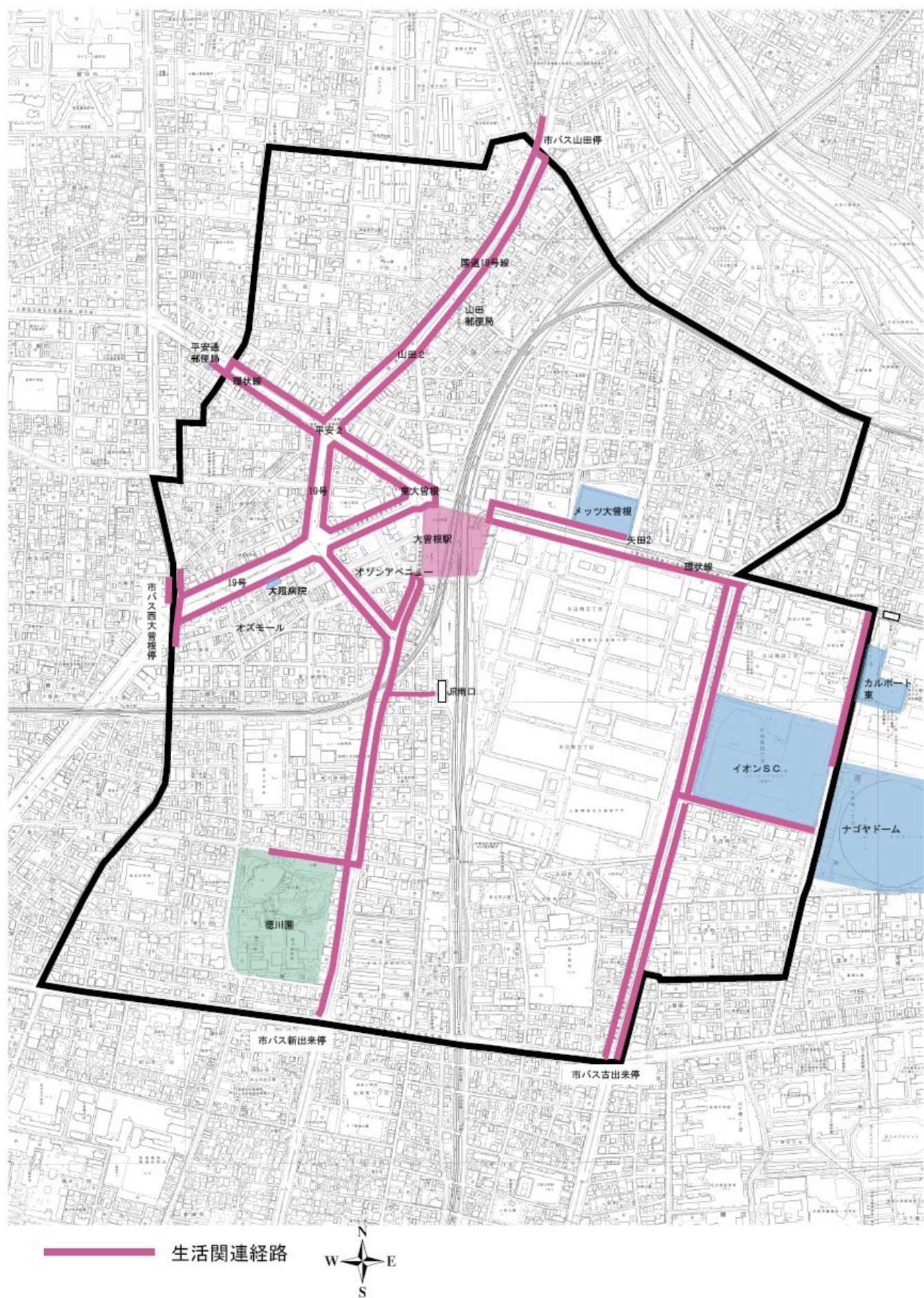
この地域の主要な施設である徳川園、ナゴヤドームまでの経路を勘案したうえで、大曽根駅重点整備地区のエリアを、次ページのように設定します。

また、旅客施設を含む生活関連施設相互間を結ぶ経路を生活関連経路に設定し、重点的にバリアフリー化を促進していきます。

大曽根駅地区における生活関連経路は、以下のとおりです。

1	徳川園方面： ①大曽根駅（駅前広場）～徳川園 ②J R大曽根駅南口～徳川園（一部上記区間を含む） ③市バス徳川園新出来停～徳川園
2	メッツ大曽根・ナゴヤドーム方面： ①大曽根駅（大曽根駅交差点）～メッツ大曽根 ②大曽根駅（大曽根駅交差点）～イオンS Cナゴヤドーム前店～矢田南デッキ～ナゴヤドーム ③ナゴヤドーム前矢田駅～ナゴヤドーム （ナゴヤドーム前矢田駅～カルポート東への経路を含む） ④市バス古出来停～矢田南デッキ～ナゴヤドーム （一部②の区間を含む）
3	大曽根駅地区西部： ①大曽根駅～大隈病院～西大曽根交差点（市バス西大曽根停） ②大曽根駅～平安二丁目交差点～平安通郵便局 ③大曽根駅～平安二丁目交差点～山田郵便局～市バス山田停 ④大曽根三丁目南交差点～大曽根四丁目交差点～平安二丁目交差点 （この地域を周回する道路として）

重点整備地区と生活関連経路



IV. 整備方針の検討

1. 基本理念

大曽根駅地区のバリアフリー基本構想の作成にあたり、次の基本理念を掲げるもの
とします。

◆地区の現状と将来像を見据えた整備を図る

市外からの交通と市内交通との結節点であると同時に、生活拠点でもある地区の現
状と将来像をふまえ、すべての人が利用しやすい快適なまちづくりをめざします。

◆安心・安全な魅力あるまちづくりに努める

誰もが安心・安全に移動しやすい空間をつくり、また快適に移動・回遊すること
により誰もが楽しめる賑わいのあるまちづくりをめざします。

◆地域住民等の意見を反映したまちづくりに努める

高齢者、障害者、地域住民、行政、関係事業者等の関係者が主体的に参加すること
で、相互に連携を深めながら実効性の高い整備を推進します。

◆長期的な視点によるバリアフリー化を推進する

関係者による相互連携の元で、継続的な整備検討をすすめる一方、ハード整備と並
行した「意識(こころ)のバリアフリー」等のソフト面の事業展開を図ることで、長期
的な視点に立ったバリアフリー化を推進します。

2. 整備等の基本方針

(1) 大曽根駅地区のまちづくりイメージ

この基本構想の基本理念や名古屋新世紀計画 2010 などの関連計画の趣旨に基づき、大曽根駅地区におけるまちづくりを推進するうえで、次のテーマを設定します。

◆まちづくりのテーマ

旅客施設間相互の移動円滑化のため駅全体の一体的な整備を図るとともに、周辺施設への安心、安全で快適な移動環境の整備と、意識（こころ）のバリアフリーを推進することにより、誰もが利用しやすい、やさしいまちづくりをめざす。

(2) 基本方針

拠点のバリアフリー

◎ 旅客施設

1 結節点としての一体的整備

複数旅客施設の重要な結節点としての機能をより強化するため、旅客施設間相互の移動を円滑にするための整備を図ります。

2 よりわかりやすい案内表示の設置・改善

誰もが円滑に乗換えができるよう、わかりやすい案内表示の設置に努めます。

また、駅構内の施設のみではなく、周辺の施設への経路についても、わかりやすい案内表示、情報提供に努めます。

3 より使いやすい設備の整備

エレベーター、階段、トイレ等の設備を、より使いやすいものとなるよう、必要に応じて整備を行います。

道路のバリアフリー

◎ 道路

1 通行しやすい歩道の整備

誰でも安全で快適に目的地まで移動できるよう、歩道の改善を行います。また、違法駐車や駐輪、看板等のはみだしなどの指導や取締り等を行い、通行しやすい

歩行環境の確保に努めます。

2 視覚障害者の円滑な移動経路の確保

主要な施設までの連続した視覚障害者誘導用ブロックを敷設します。また、地下鉄出入り口から最寄りのバス停までの経路に、視覚障害者誘導用ブロックを連続して敷設し、駅施設の利便性の向上を図ります。

また音響機能を有する信号機を設置するなどして、安全な横断ができるよう努めます。

3 生活関連経路以外の道路

生活関連経路以外の道路についても、地区の実情に応じて、歩行者が通行しやすい環境づくりに努めます。

意識（こころ）のバリアフリー

◎ ソフト政策

人的対応等による人にやさしいまちづくりの推進

誰もが安心して利用するためには、人による対応も重要な要素です。ハード整備を主体とする事業に加えて、人的対応をはじめとするソフト事業についても、障害者をはじめとする市民の積極的な参画を得て重点的に取り組むことで、互いに補完しながら総合的なバリアフリー化を推進します。

V 整備計画（特定事業計画等）

大曽根駅地区の生活関連施設や生活関連経路等について、基本理念及び整備等の基本方針に基づいて、以下の整備等を行うこととします。

関係事業者において、この基本構想に沿って特定事業計画を作成し、相互に協調して事業を実施します。

1. 公共交通特定事業等

事業主体	主な整備内容
名古屋市交通局	地下鉄 《大曽根駅・ナゴヤドーム前矢田駅》 ○ホーム端の警告ブロックをホーム縁端警告ブロックに改修 ○エスカレーター音声案内装置及び方向表示の設置 ○改札口の音響案内装置の設置 ○点字案内の設置（階段手すり） 《大曽根駅》 ○出口の点字案内の整備・改善 《ナゴヤドーム前矢田駅》 ○車いす使用者対応トイレの改良（多機能化） ○一般トイレの改修 ○触知図案内板の設置（改札口付近、トイレ） ○階段踏面端部の改修 ○エレベーターへの案内表示の整備 市バス 《バス停》 ○バス停への上屋の設置（大曽根駅西(南行)） ○ベンチの改善 《バス車両》 ○ノンステップバス導入の促進

事業主体	主な整備内容
JR 東海	JR 大曽根駅 ○ エスカレーターの音声案内装置の設置 ○ エレベーターの音声案内装置の改修
名古屋鉄道	名鉄大曽根駅 ○多機能トイレの整備 ○階段手すりの改修 ○エレベーターの整備の検討

2. 道路特定事業等

事業主体	主な整備内容
名古屋市・中部 地方整備局	○視覚障害者誘導用ブロックの連続敷設 ・最寄のバス停～徳川園北口 ・矢田南三丁目バス停～ナゴヤドーム ・地下鉄大曽根駅出口～最寄の交差点・最寄のバス停(※) ○視覚障害者誘導用ブロックの敷設・改修 ・バス停表示ブロック（大曽根⑤のりば、大幸、矢田南四丁目、山田町三、山田町）(※) ・交差点部等（JR 大曽根駅南口前、国道19号の一部、赤荻町線の一部、環状線の一部）(※) ・オズパーキング(※) ○ 歩道勾配の改善 ・AGプラザ前(※) ○ 歩道の拡幅 ・徳川園東入口(※)

3. 交通安全特定事業

事業主体	主な整備内容
公安委員会	○視覚障害者用付加装置の設置(※) ○違法駐車車両の取締り強化

4. その他の事業

事業内容	
駅相互の 移動円滑化	○駅や歩行経路におけるよりわかりやすい案内表示の検討 ○乗換経路の整備
ソフト事業	○バリアフリーマップの作成等、バリアフリー状況に関する情報提供 ○違法駐車や駐輪、看板等のはみだしなど、高齢者・障害者等の円滑な移動を阻む行為の防止に関する広報・啓発活動 ○サービス介助士を配置し、障害者等への対応の向上に努める。(市交通局・名鉄) ○避難訓練マニュアル等に障害者等に対する事項を盛り込むなど、災害時においても適切に障害者等への対応ができるよう努める。 ○徳川園における障害者等への案内情報については、黒門横のインターフォンによる人的支援に努める。

(※)は、原則として平成22年度までに整備するもの

VI 整備計画以外の事業

次に掲げる事業は、今回の基本構想策定中に、基本構想策定調整会議及び策定協議会の意見をうけて、整備を行ったものですが、平成 20 年度中に整備を終了したため、V の特定事業計画には記載しなかったものです。

1. 公共交通事業

事業主体	主な整備内容
名古屋市交通局	地下鉄 《大曽根駅》 ○触知図案内板の設置（改札口付近） 《ナゴヤドーム前矢田駅》 ○車いす使用者対応トイレの鍵の改善 市バス 《駅前広場》 ○触知図案内板の改善（駅前広場） 《バス停》 ○バス停への上屋の設置（大曽根⑦⑧のりば、西大曽根(西行)） （大曽根駅⑦⑧のりばについては、上屋の設置に併せて、バス停の視覚障害者誘導用ブロックを敷設） ○破損したベンチの撤去（大曽根駅西(北行)）
ガイドウェイバス	大曽根駅 ○音声案内装置の設置(トイレ) ○触知図案内板の設置(トイレ) ○視覚障害者誘導用ブロックの敷設(トイレ) ○階段手すりの点字案内の改善

2. 都市公園

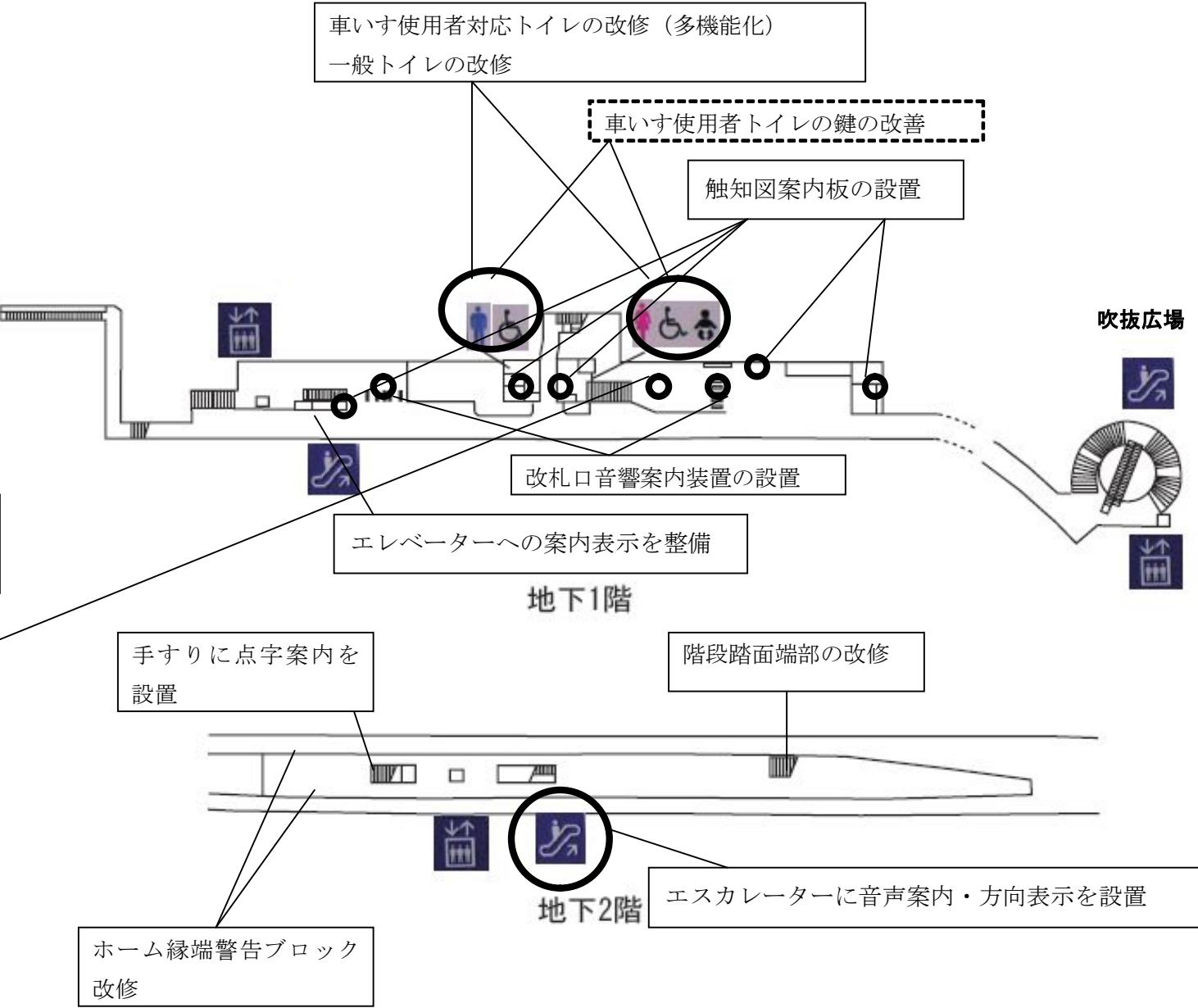
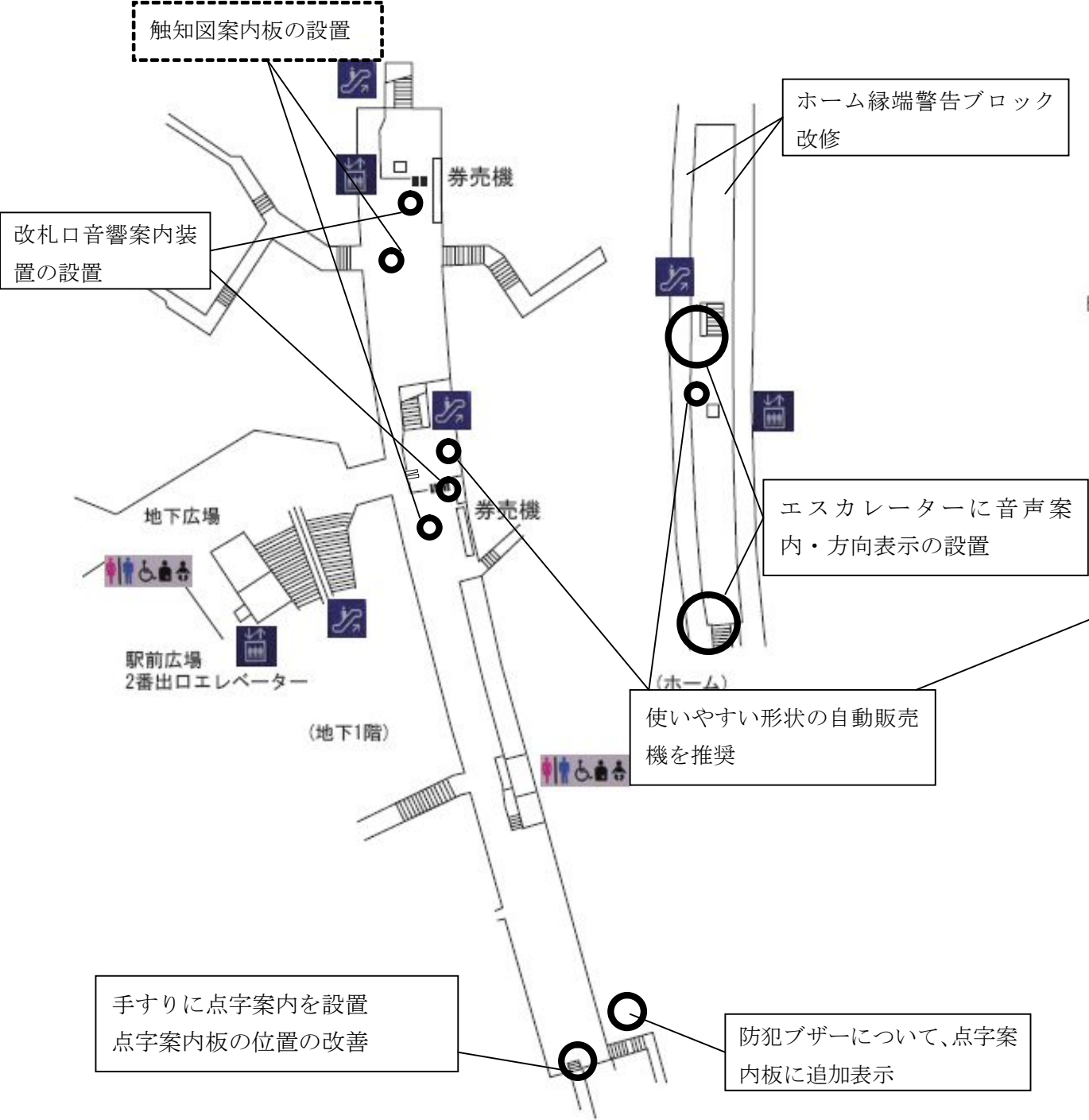
事業主体	主な整備内容
名古屋市	徳川園 ○トイレへの動線の凹凸の解消 ○トイレの照明の改善 ○トイレの男女表示の追加表示 ○東入口グレーチング（溝蓋）の改善

Ⅶ 整備内容

地下鉄

ナゴヤドーム前矢田駅

大曽根駅



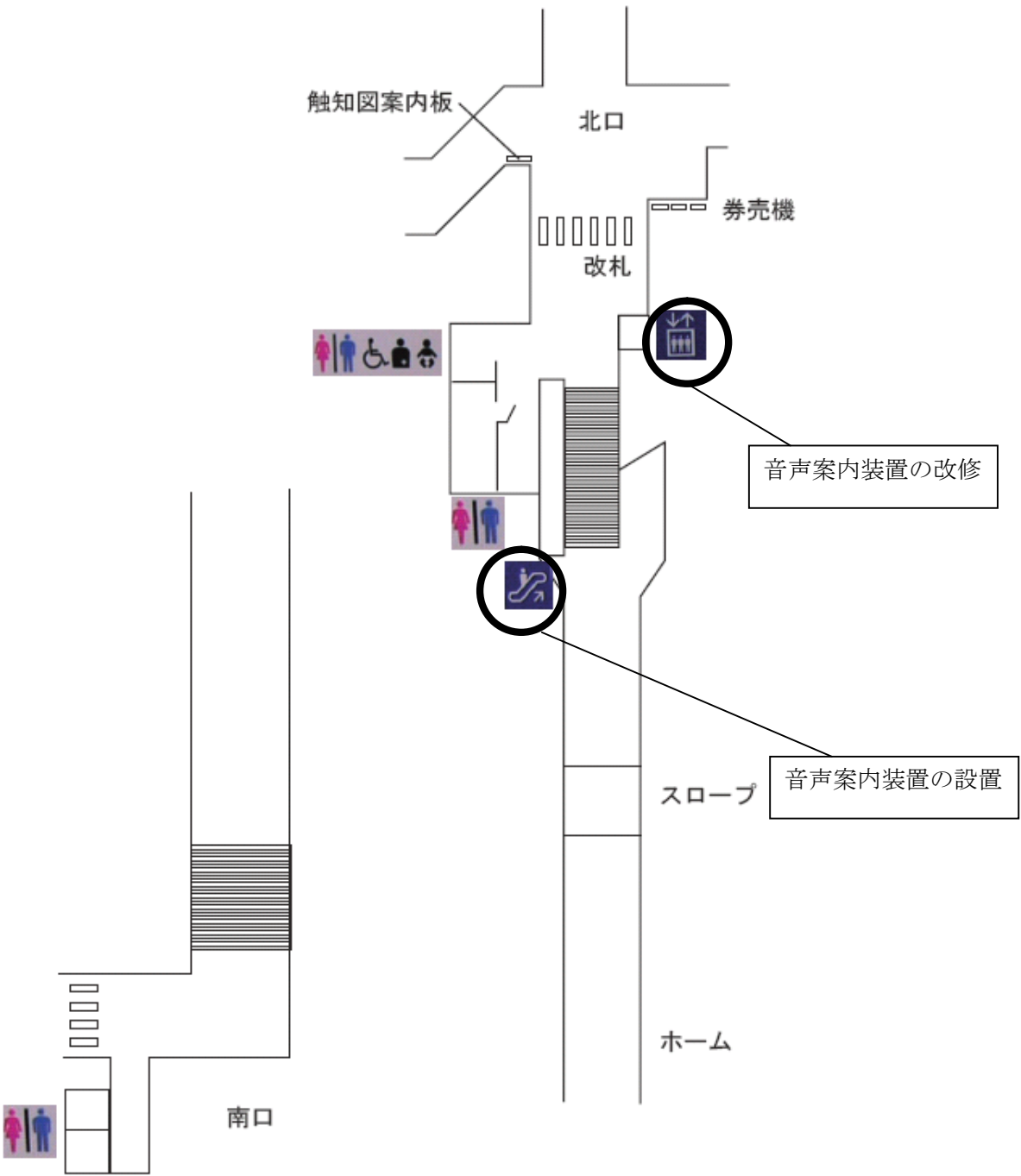
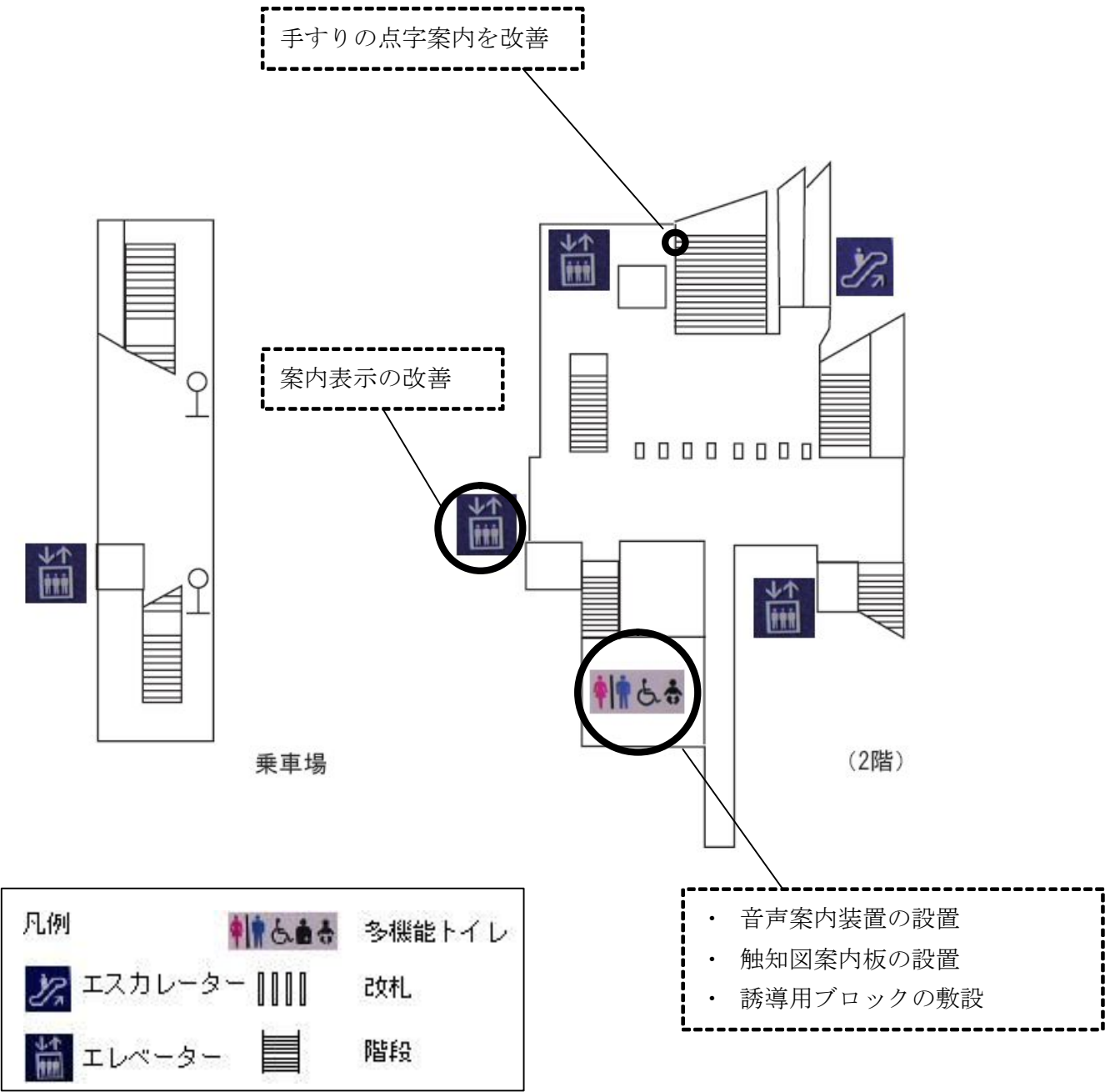
凡例

	多機能トイレ
	エスカレーター
	エレベーター
	改札
	階段

内は、20 年度中に整備済

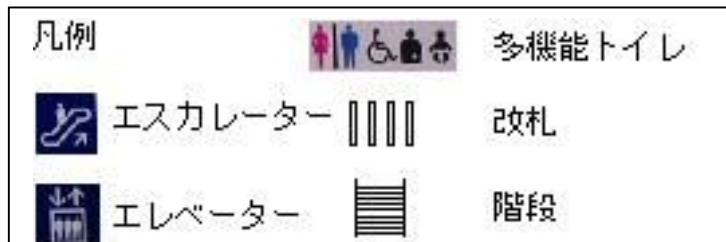
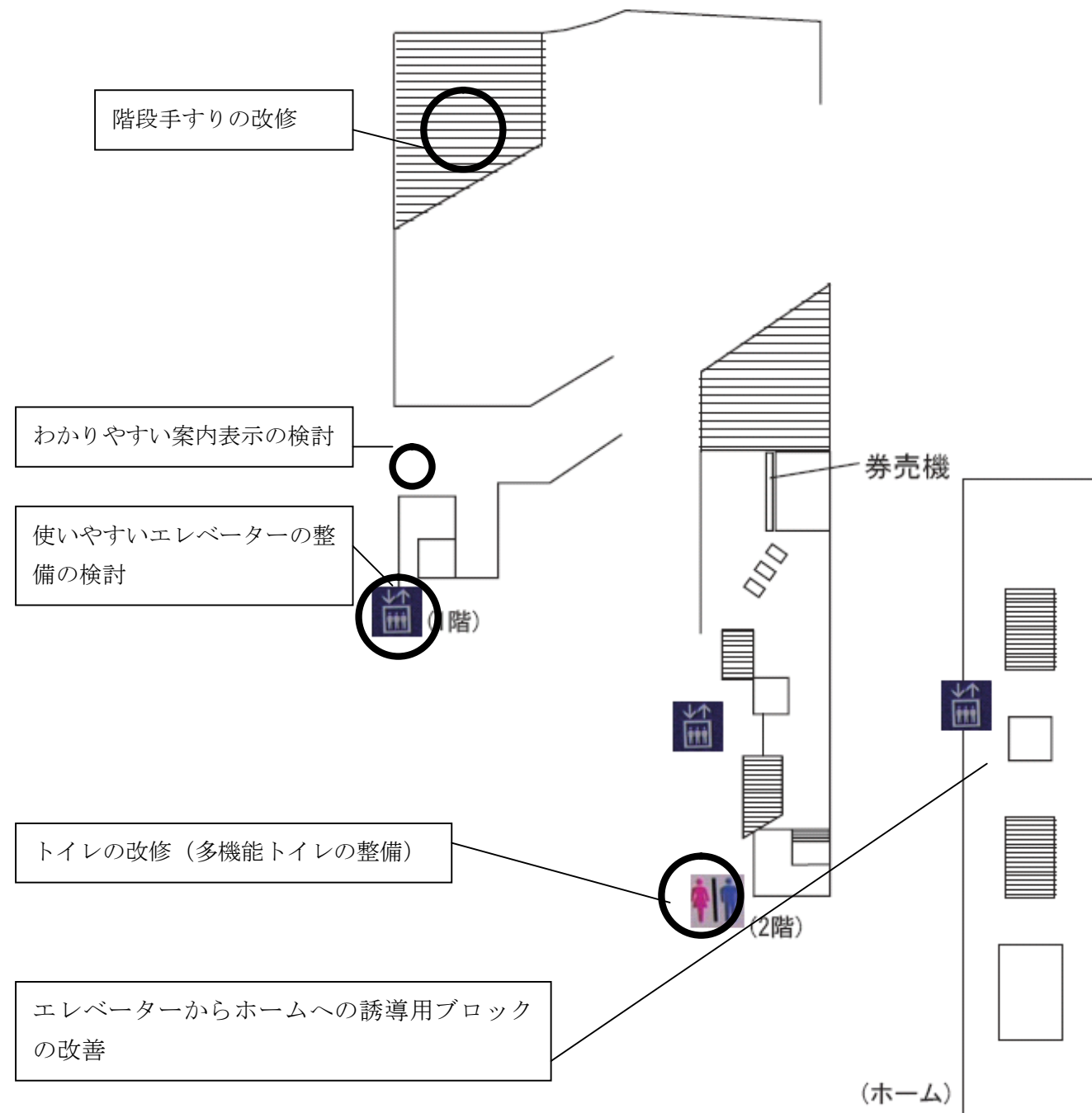
大曽根駅

大曽根駅



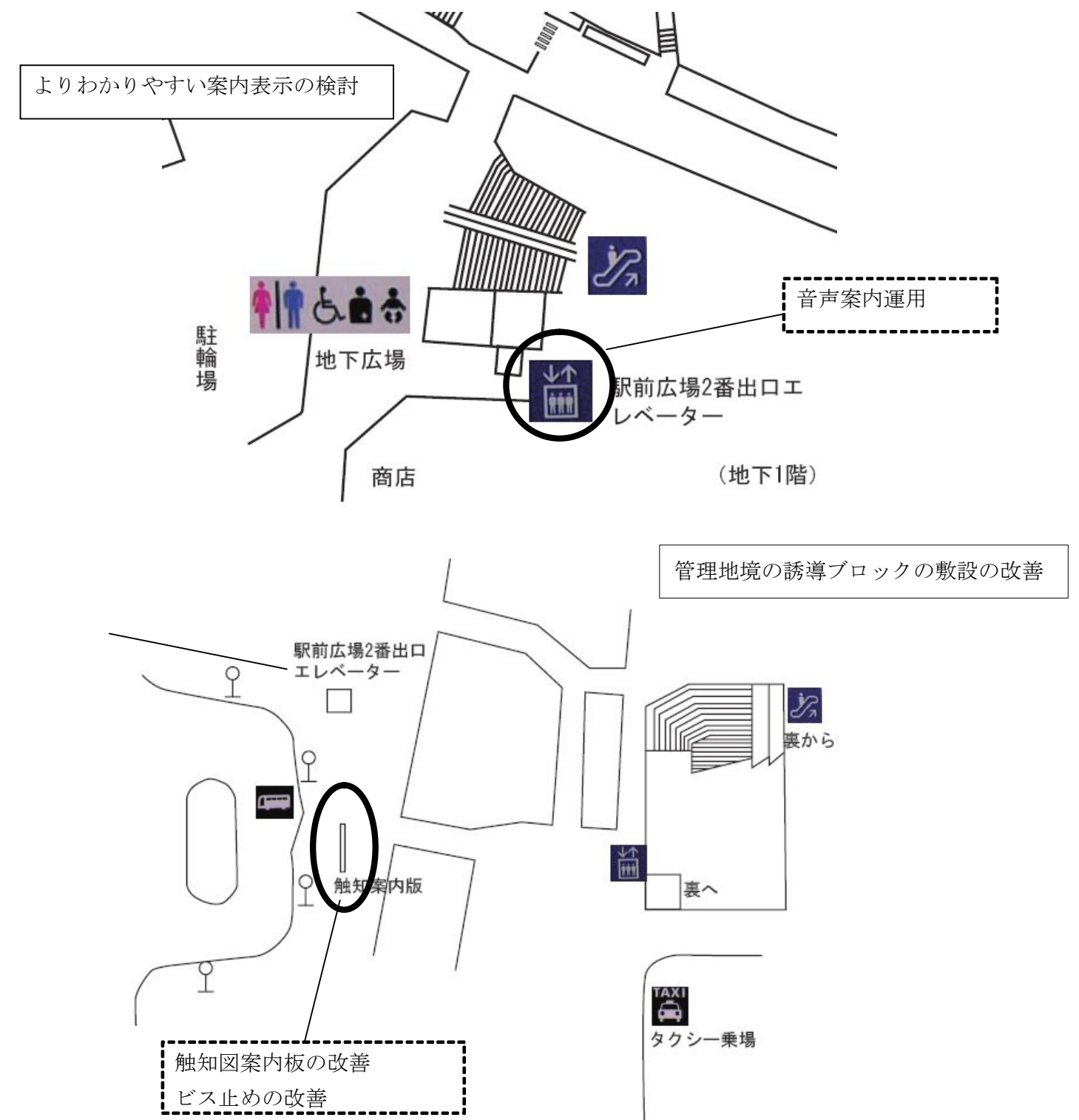
名鉄

大曽根駅



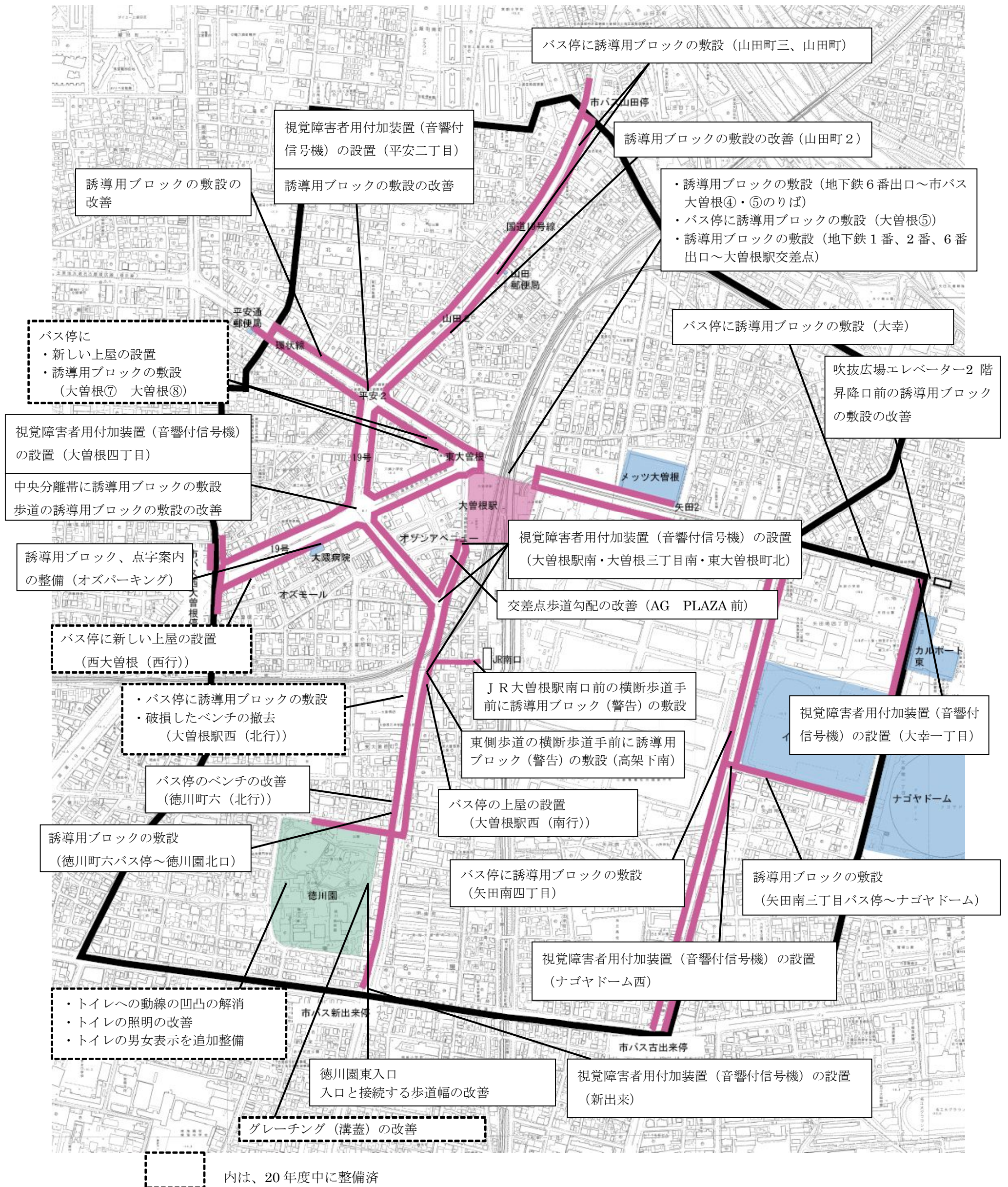
駅前広場

駅前広場



内は、20年度中に整備済

周辺経路



Ⅷ 人にやさしいまちづくりに向けて

1. より安心で安全なまちづくりに向けて

以下の事業は、市民・利用者の要望がとくに高かったものです。現状できるだけの対応はしておりますが、より安心で安全なまちづくりに向けて、今後、それぞれの課題解決に向けた検討や、技術的な調査研究を継続的行っていきます。

- プラットフォームにおける可動式ホーム柵等による転落防止措置
- 電車とプラットフォームの段差の改善
- 情報伝達やコミュニケーションに障害のある人たちに対する緊急時も含めた情報伝達
- 災害時における障害者等に対するより確実な避難誘導

2. 意識(こころ)のバリアフリーの推進

すべての人にやさしいまちづくりのためには、施設等のバリアフリー化整備とともに、市民ひとりひとりがお互いに支え合う環境づくりが必要です。

そのために、高齢者や障害者等に対する理解を深め、意識(こころ)のバリアを解消するための広報・啓発を行っていきます。

- 市民への意識(こころ)のバリアフリーに関する啓発
- 違法駐車や駐輪、看板等のはみだしなど、高齢者・障害者等の円滑な移動を阻む行為の防止に関する広報・啓発活動
- バリアフリーマップの作成等、バリアフリー状況に関する情報提供

3. 基本構想策定後の取り組み

(1) 各特定事業等の着実な推進

重点的かつ一体的なバリアフリー化を実現するために、基本構想に定める各特定事業等を着実に実施していきます。また、必要に応じて、各事業者間で整備時期や内容に関して十分な連絡・調整を図り、事業を推進していきます。

(2) 各特定事業等の進行管理と検証システムの確立

事業の適正な実施を図るため、「福祉のまちづくり推進委員会」において進行管理や検証を行い、バリアフリー化の実現に向けた検討・情報交換を行います。また、市民の方に対し情報提供を行い、整備状況の確認や検証を行える仕組みを検討していきます。

参 考 資 料

～ 基本構想の策定経過 ～

1. 策定経過とメンバー

大曽根駅地区バリアフリー基本構想策定調整会議 … 基本構想案の作成

◆第1回大曽根駅地区バリアフリー基本構想策定調整会議

(H20.6.16 13:30～ 六郷小学校特活室)

- 事業概要及びオリエンテーション
- 磯部スーパーバイザーによる講演
「バリアフリーのまちづくりの新たな視点」
- 現地調査とワークショップ

◆第2回大曽根駅地区バリアフリー基本構想策定調整会議

(H20.7.10 13:30～ 六郷小学校特活室)

- 現地調査とワークショップ
- 第1回現地調査結果のフィードバック

◆第3回大曽根駅地区バリアフリー基本構想策定調整会議

(H20.8.5 13:30～ 六郷小学校特活室)

- 現地調査とワークショップ
- 第2回現地調査結果のフィードバック

◆第4回大曽根駅地区バリアフリー基本構想策定調整会議

(H20.9.5 14:00～ 名古屋市総合社会福祉会館大会議室)

- 現地調査の結果について

◆第5回大曽根駅地区バリアフリー基本構想策定調整会議

(H20.11.10 14:00～ 名古屋市消費生活センター第一研修室)

- 基本構想中間案について

◆第6回大曽根駅地区バリアフリー基本構想策定調整会議

(H21.2.16 14:00～ 名古屋市消費生活センター第一研修室)

- 基本構想成案について

名古屋市バリアフリー基本構想策定協議会 … 基本構想案の審議・検討

◇第1回バリアフリー基本構想策定協議会

(H20.6.19 14:00～ 名古屋市公館レセプションホール)

- 事業概要及び今後の策定スケジュールについて

◇第2回バリアフリー基本構想策定協議会（H20.11.17 14:00～ 名古屋市正庁）

- 現地調査結果の報告
- 基本構想中間案について

◇第3回バリアフリー基本構想策定協議会（H21.2.19 14:00～ 名古屋市正庁）

- 基本構想成案について

福祉のまちづくり推進委員会 … 基本構想案の報告

■第29回福祉のまちづくり推進委員会（H20.10.17 14:00～ 名古屋市正庁）

- 事業概要及び現地調査結果の報告

■第30回福祉のまちづくり推進委員会（H21.3.19 14:00～ 名古屋市正庁）

- 基本構想成案について



第1回バリアフリー基本構想策定協議会



第2回バリアフリー基本構想策定協議会

◆ 大曽根駅地区基本構想策定調整会議

() は代理等による出席

区分	氏名	職名
地元市民代表者	飯沼 龍祥 上馬場孝郎 西村 建二 溝口 義照 長谷川武壽 加藤登美子 中村 國夫 岡田 茂代 菊田哲二郎 百田 昌藏 馬場 勇 渡邊 泰彬	東区旭丘学区区政協力委員長 東区旭丘学区民生委員児童委員協議会会長 東区矢田学区区政協力委員長 東区矢田学区民生委員児童委員協議会会長 北区六郷学区区政協力委員長 北区六郷学区民生委員児童委員協議会会長 北区六郷北学区区政協力委員長 北区六郷北学区民生委員児童委員協議会会長 北区飯田学区区政協力委員長 北区飯田学区民生委員児童委員協議会会長 東区商店街連合会支部長 北区商店街連合会会長
高齢者・ 障害者代表者	米本 憲正 水野 宏三 豊島 秀夫 伊藤 清直 伊藤 恵美子 前田 眞彦 山田 弘 杉本 由司 森 美親 辻 直哉 (平山 晶士) 城内 敏彦 樋口 明信 伊藤 恵子 橋 麻也子 宮原 あけみ 岡田 ひろみ 内田 由美子 野崎 節子	東区旭丘学区老人クラブ連合会会長 東区矢田学区老人クラブ連合会会長 北区六郷学区老人クラブ連合会会長 北区六郷北学区老人クラブ連合会会長 北区飯田学区老人クラブ連合会会長 なごやかハウス出来町事務長 福祉のまちづくり推進委員会推薦 福祉のまちづくり推進委員会推薦 愛知県重度障害者の生活をよくする会 愛知県重度障害者団体連絡協議会事務局 東区身体障害者福祉協会会長 北区身体障害者福祉協会会長 名古屋難聴者・中途失聴者支援協会 東区手をつなぐ育成会会長 北区手をつなぐ育成会副会長 愛知県自閉症協会副会長 東区精神障害者家族会会長 北区精神障害者家族会会長
区社会福祉協議会	榎原 康夫 下村 義興	東区社会福祉協議会事務局次長 北区社会福祉協議会事務局次長
行政関係者	浅井 慎一 慣例により 氏名省略 北村 仁志 林川 浩司 森 浩久 吉村 金利 近藤 真司 川井 明彦	国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所交通対策課交通対策係長 愛知県警察本部交通規制課規制企画係長 愛知県警察本部交通規制課規制実施係長 愛知県警察本部交通規制課規制実施主任 愛知県警察本部交通管制課施設係長 愛知県警察本部駐車対策課対策第二係長 東警察署交通課規制係長 北警察署交通課規制係長 総務局交通政策室主査(交通政策) 市民経済局地域安全推進課主査(交通安全推進) 住宅都市局交通施設計画課計画第一係長 住宅都市局特定交通経営管理室主査(企画) 住宅都市局大曽根北都市整備事務所主査 緑政土木局企画経理課主査(企画)

行政関係者 (続き)	平尾 高之	緑政土木局道路管理課指導係長
	服部 稔	緑政土木局道路維持課安全対策係長
	加藤 巖	緑政土木局自転車駐車対策室主査（自転車等駐車対策）
	堀 透	緑政土木局緑地管理課指導係長
	高瀬 浩吉	緑政土木局緑地施設課建設係長
	尾崎 嘉成	緑政土木局東土木事務所維持係長
	若杉 幸雄	緑政土木局北土木事務所維持係長
	高木 貴子	東区まちづくり推進室主査（安心・安全で快適なまちづくりの企画）
	石川 利恵	北区まちづくり推進室主査（安心・安全で快適なまちづくりの企画）
	安藤 孝	消防局指導課建築係長
	吉田 篤史	交通局経営企画課調査係長
	橋本 貢	交通局電車施設課計画係長
	山田 律男	交通局自動車施設課施設係長
	大脇 千鶴	健康福祉局障害企画課主査（福祉都市推進）

◆名古屋市バリアフリー基本構想策定協議会名簿

◎：委員長 ():前任者

区分	氏名	職名
学識経験者	児島美都子 ◎ 曾田 忠宏 磯部 友彦	日本福祉大学名誉教授 愛知工業大学非常勤講師 中部大学教授
福祉関係者	太田 豊治 相野田克司 坂本 隆司 笹川 純子 山田 昭義 仁木 雅子 岡田 ひろみ 武馬 武雄	名古屋市老人クラブ連合会会長 名古屋市身体障害者福祉連合会会長 名古屋市総合リハビリテーション事業団指導員 名身連聴覚言語障害者情報文化センター所長 Λ J U 自立の家専務理事 名古屋手をつなぐ育成会理事長 愛知県自閉症協会副会長 名古屋市精神障害者家族会連合会副会長
民間事業者	山田 章博 (関戸 淳二) 安達 宗徳 青木 喜臣	東海旅客鉄道(株) 管理部課長 名古屋鉄道(株) 建設部課長 名古屋ガイドウェイバス(株) 総務課長
行政関係者	高橋 敏彦 遠藤 健二 高木 均 梅村 昭夫 (花木 健) 古川 治義 榮野 美登 伊藤 容子 吉田 敏和 水野 雅幸 上垣 孝三 田中 勝郎 細萱 健一 早川 高明 加納 弘樹 岩瀬 伸夫 中野 雅通 佐藤 正 村高 正清 中島 聡 宇佐美 徹 林 章 中島 敬二 高橋 和男 秋山 智 熊澤 章	国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所長 愛知県警察本部交通部交通規制課長 愛知県警察本部交通部交通管制課長 愛知県警察本部交通部駐車対策課長 東警察署長 北警察署長 総務局総合調整部企画調整室長 総務局総合調整部交通政策室長 住宅都市局都市計画部交通施設計画課長 住宅都市局都市計画部特定交通経営管理室長 住宅都市局市街地整備部大曾根北都市整備事務所主幹 緑政土木局道路部道路管理課長 緑政土木局道路部道路維持課長 緑政土木局道路部自転車駐車対策室長 緑政土木局緑地部緑地施設課長 東土木事務所長 北土木事務所長 東区区民生活部主幹(安心・安全で快適なまちづくりの企画) 北区区民生活部主幹(安心・安全で快適なまちづくりの企画) 交通局営業本部電車部電車施設課長 交通局営業本部自動車部自動車施設課長 交通局営業本部施設車両部主幹(バリアフリー化) 健康福祉局高齢福祉部介護指導課長 健康福祉局障害福祉部障害者支援課長 健康福祉局障害福祉部主幹(精神保健福祉・福祉都市推進)
アドバイザー	富本 茂 中西 賢也 宮崎 哲 安面 光敏	国土交通省中部運輸局愛知運輸支局首席運輸企画専門官 国土交通省中部地方整備局建政部都市整備課長 国土交通省中部地方整備局道路部交通対策課長 愛知県建設部建築指導課課長補佐

◆ 福祉のまちづくり推進委員会名簿

◎委員長		
区分	氏名	職 名
学識経験者	青山 光子	名古屋市立大学名誉教授
	磯部 友彦	中部大学教授
	児島 美都子	日本福祉大学名誉教授
	佐藤 圭二	中部大学教授
	嶋田 喜昭	大同工業大学准教授
	◎曾田 忠宏	愛知工業大学非常勤講師
	高橋 博久	愛知学泉大学客員研究員
福祉関係者	相野田 克司	名古屋市身体障害者福祉連合会会長
	太田 豊治	名古屋市老人クラブ連合会会長
	坂本 隆司	名古屋市総合リハビリテーション事業団指導員
	笹川 純子	名身連聴覚言語障害者情報文化センター所長
	山田 昭義	A J U 自立の家常務理事
	仁木 雅子	名古屋手をつなぐ育成会理事長
	武馬 武雄	名古屋市精神障害者家族会連合会副会長
	岡田 ひろみ	愛知県自閉症協会副会長
行政関係者	後藤 勝彦	総務局企画部長
	横田 啓子	子ども青少年局子ども育成部長
	荒川 政司	住宅都市局建築指導部長
	中神 俊士	住宅都市局営繕部長
	安田 好文	住宅都市局開発調整部長
	山本 秀隆	緑政土木局道路部長
	寺西 健	緑政土木局緑地部長
	横井 政和	教育委員会事務局総務部長
	山内 善一朗	交通局営業本部総合企画部長
	谷口 幸男	健康福祉局高齢福祉部長
	赤井 久夫	健康福祉局障害福祉部長

2. 現地調査の結果

(1) 現地調査の概要

大曽根駅地区バリアフリー基本構想の策定にあたり、基本構想策定調整会議において、重点整備地区内の旅客施設、道路・公園について現地調査を実施しました。

この調査は、各種整備基準に合致しているかどうかという視点だけではなく、利用者が利用しやすいかどうかという視点からも実施したもので、その結果、国の整備基準等に合致しているものについても、幅広く意見・要望が出されました。

実施日	平成 20 年 6 月 16 日(月)	平成 20 年 7 月 10 日 (木)	平成 20 年 8 月 5 日 (火)
調査対象	旅客施設・地下広場	旅客施設・道路	旅客施設・道路・公園
	☐ 地下鉄大曽根駅 ☐ J R 大曽根駅 ☐ 名鉄大曽根駅 ☐ バスターミナル ☐ ガイドウェイバス（ゆとりーとライン）大曽根駅 ☐ オズガーデン(地下広場)	☐ 地下鉄ナゴヤドーム前矢田駅 ☐ ガイドウェイバス（ゆとりーとライン）ナゴヤドーム前矢田駅 ☐ ナゴヤドーム方面（道路、ペDESTRIANデッキ） ☐ オズモール方面（道路） ☐ オゾンアベニュー方面（道路）	☐ 乗継経路 ☐ 周辺道路 ☐ 徳川園方面（道路） ☐ 徳川園（公園）
調査方法	① 参加者を4グループに分け、地元市民・高齢者・障害者と行政職員がともに、擬似体験（車いす、アイマスク、耳栓を使用）をしながら調査を行った。 ② 調査終了後、グループごとに3つの視点から問題点や課題、評価できる点等について議論を行い、地図に落とし込んでいった。その後、各グループの代表者が発表し、意見の共有化を図った。 (3つの視点) ◆ 施設・設備の使いやすさ→施設・設備の実用性の視点 ◆ 移動のしやすさ→通行移動の円滑さの視点 ◆ 案内情報のわかりやすさ→移動を支援する情報提供に関する視点		

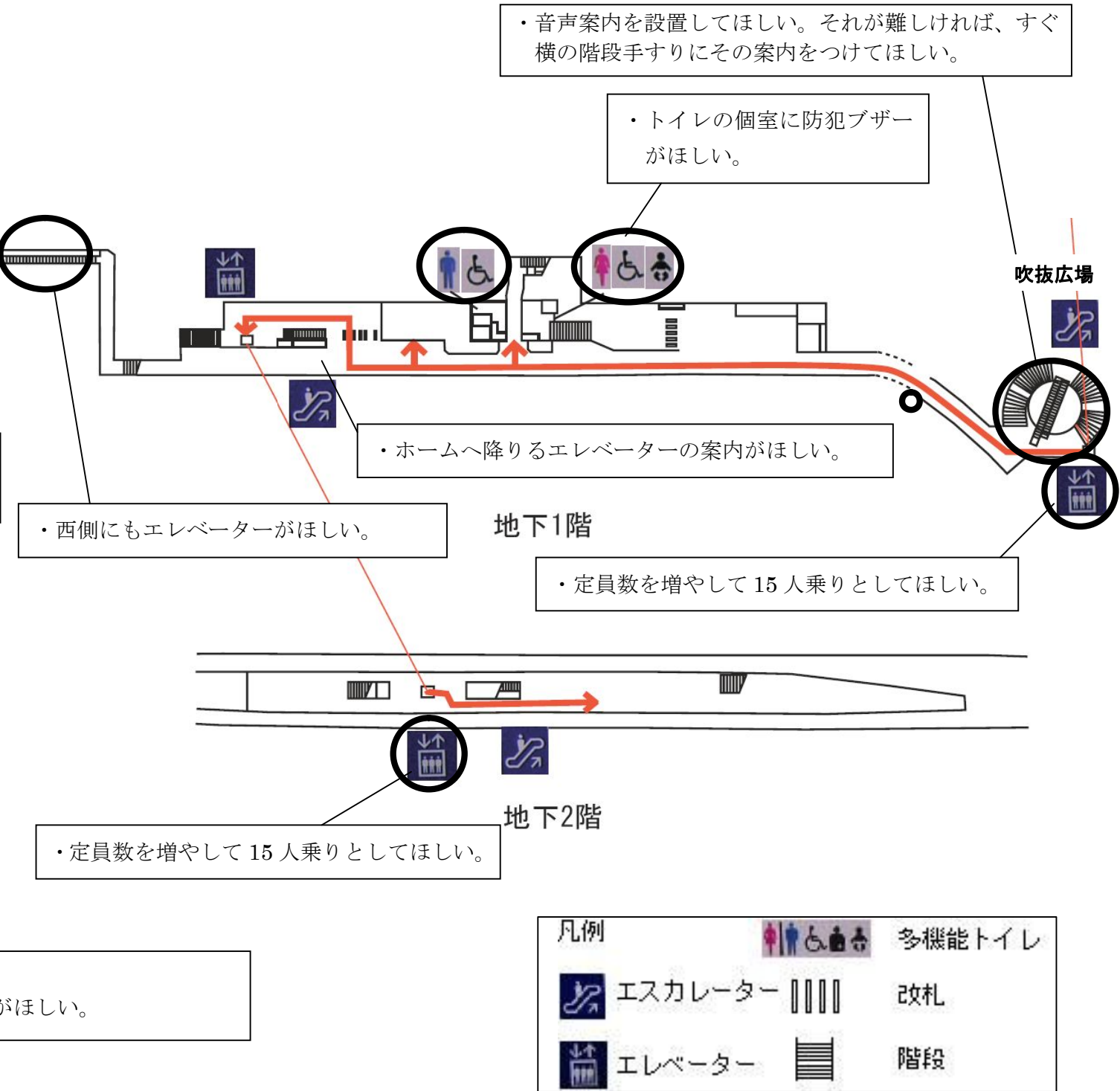
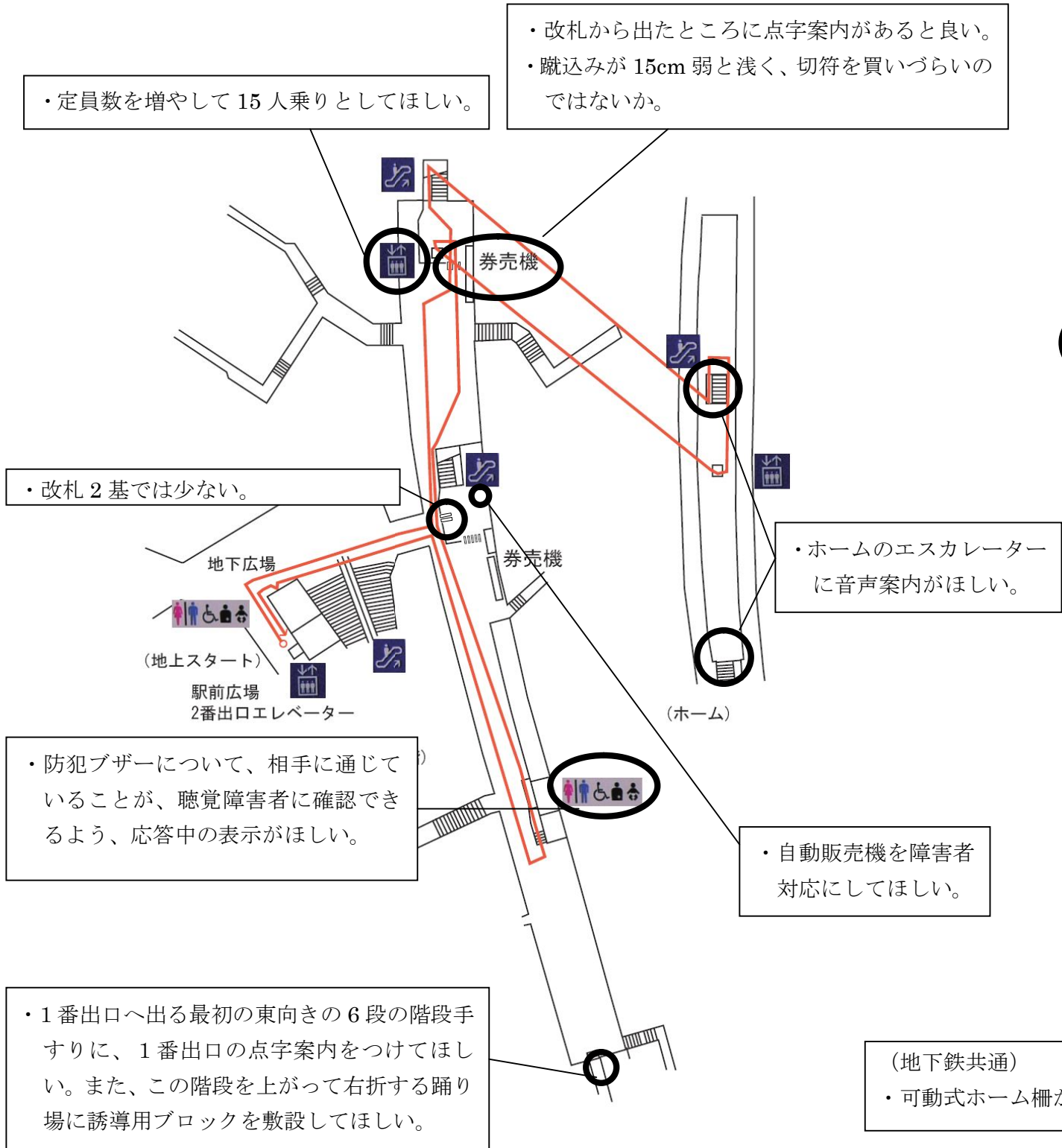
(2) 現地調査の結果

現地調査において、参加者から出された意見の主なものを次のとおりまとめました。なかには、移動等円滑化基準に合致した諸設備についても、当日参加者から機能向上の要望等がありましたが、基準と照らしあわせて、改修の必要がないと判断したものについては、「特定事業計画」に反映していないものも含まれています。

また、調査当時の状況のため、現在においては改善されているものもあります。

大曽根駅

ナゴヤドーム前矢田駅



名鉄 大曽根駅

- ・階段が広いので真中に手すりがほしい。
- ・2 段手すりになっていない場所がある。
- ・階段手すりに点字案内がない。
- ・階段の滑り止めが 3 本連続して設置されているため階段の角がわからない。

- ・エレベーターへの案内がわかりにくい。
- ・エレベーターへの通路では、舗装の色使いと誘導用ブロックが紛らわしい。

- ・インターホンで連絡しないと使えないので不便。

- ・階段の滑り止めが 3 本連続して設置されているため階段の角がわからない。
- ・踊り場に警告用の誘導用ブロックがない。

- ・入口通路が狭い。
- ・階段に手すりがない。
- ・案内表示が暗くわかりにくい。
- ・スロープ、車いす使用者対応トイレがない。

- ・反対ホームへの誘導用ブロックがない。

- ・窓口まで誘導用ブロックで案内がされているのに、窓口が開かれておらず、機械をお使いくださいと紙面で記載されていた。

凡例		多機能トイレ
		改札
		階段

ガイドウェイバス ナゴヤドーム前矢田駅

- ・階段手すりの点字案内の一部が消えている。

- ・エスカレーターに音声案内を設置してほしい。
- ・2 階へ上がる階段左端（エスカレーター横）の点字案内板を、手すりの案内のすぐ上（階段上の案内板のように）に設置してほしい。

- ・視覚障害者用案内表示がない。
- ・音声案内を設置してほしい。

- ・エレベーター内の案内が少ない。

JR 大曽根駅

- ・点字ブロック案内板からトイレまで遠いので、誘導用に手すりを設置してほしい。

- ・券売機の画面を見やすくしてほしい。

- ・定員数を増やして 15 人乗りとしてほしい。
- ・ホームへの案内表示があるとよい。

- ・最後のスロープを緩やかにしてほしい。

- ・ホームでの案内表示を増やしてほしい。
- ・建物の両側に柱があり、車いすの通行には狭い。

駅前広場及び駅全体

- (地下広場)
- 地下から地上への階段の手すりの点字案内について、単に「地上へ」ではなく、「JR、名鉄、ゆとりーと方面へ」等もう少し詳しく書いてほしい。
 - 地下鉄大曽根駅改札からエレベーターのない駅前広場 3 番・4 番・5 番出口の階段への誘導用ブロックを敷設してほしい。

- (地上広場)・上屋が狭い。
- 非常ボタンはしっかり対応されているのかわかりにくい。
 - 案内表示が、ついたてのせいで車いすからは見えない。
 - 駐輪場への扉を軽くしてほしい。

- 地下広場トイレの視覚障害者のための案内板について、女子トイレ入口の右側の壁につけてほしい。内容としては、現在地下鉄駅構内のトイレに設置されているものがよい。
- エレベーターで地下に降りたところに、商店街方面、地下鉄方面などの案内があるとよい。
- 駅前広場 2 番出入口を出た近くに音声触知図案内板がほしい。(地上)
- 降車場に点字の概略的なバス案内図(地図と系統案内)がほしい。

- バスターミナルを周回する誘導用ブロックを駅前広場 1 番から 6 番までの階段出入口へ接続してほしい。

- (駅全体)
- 改札前に災害情報があるとよい。
 - ホーム以外に電光掲示板がない。
 - 避難誘導がわからない。

- (案内)
- 案内表示が小さくて見にくい。
 - 案内表示の明度差がはっきりしない。
 - 案内表示が高い。柱に隠れて見にくい。
 - 案内表示に照明が反射して見にくい。
 - 出口の先になにがあるのか、案内表示がほしい。

- バスの案内が地下通路の左右に分かれている。
- 地下広場の防火シャッターのくぐり戸に「非常口」と表示するのが望ましい。
- 音声案内がない。
- 昇り旗等による消火器、屋内消火栓、誘導灯に対する視認障害。
- 商品、看板等が通路上に置かれている。(地下通路) 避難時の障害となる。
- 敷地所有者ごとに段差や、誘導用ブロックが途切れている箇所がある。
- ゆとりーと前(地下鉄 2 番出口付近)、放置自転車で誘導ブロック、案内板がわかりにくい。
- 看板等が誘導用ブロックぎりぎりに出ていた。
- 地下鉄 2 番出口から出て、名鉄方面へ向かう敷地境界の誘導用ブロックの屈折を直線に改良してほしい。

- バスターミナル触知図案内板をあと 20cm 上げてほしい。
- 点字位置が低い。ビス止めが現在地表示と紛らわしい。
- 音声案内触知図案内板に改良してほしい。

凡例

 エスカレーター

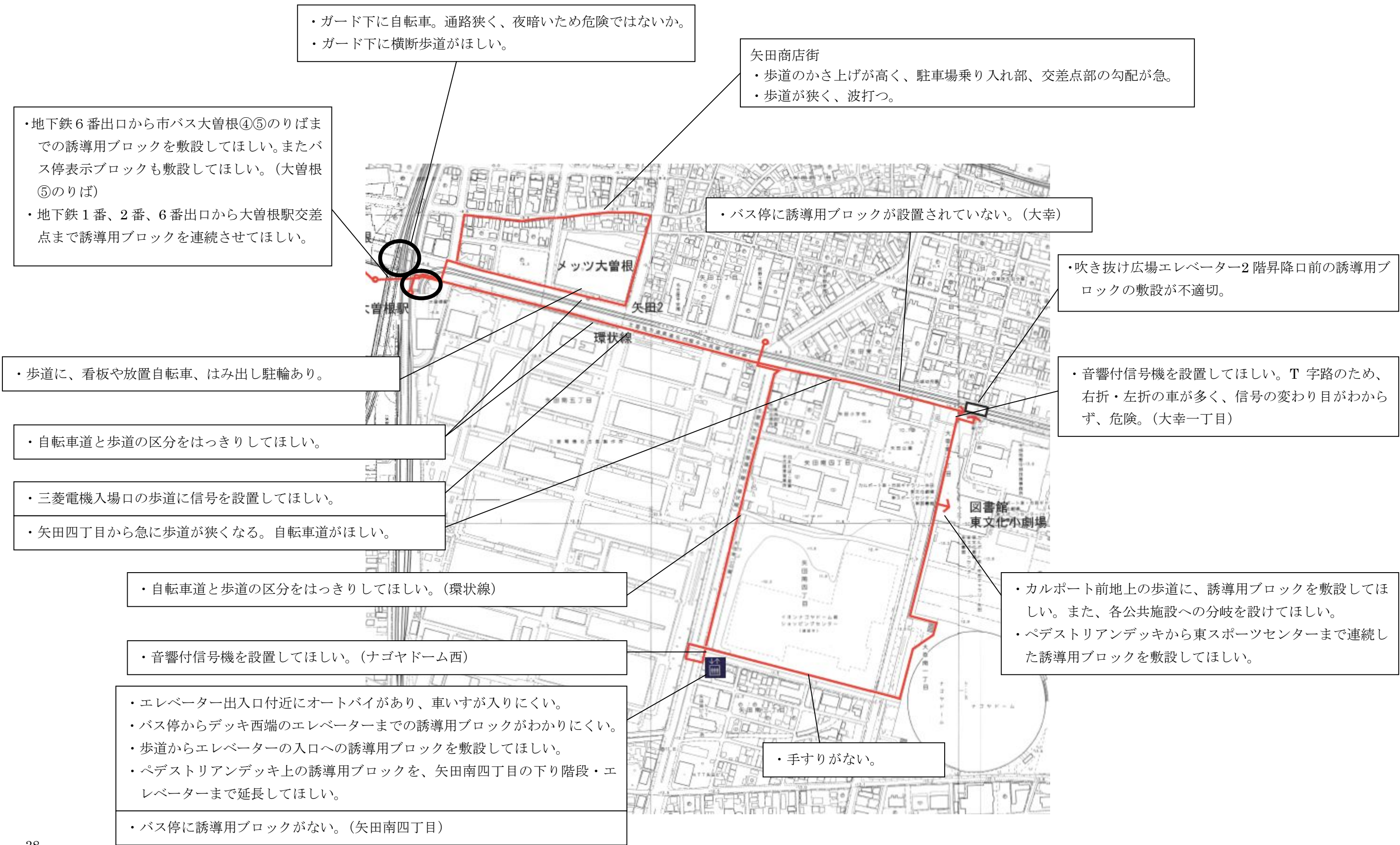
 エレベーター

 多機能トイレ

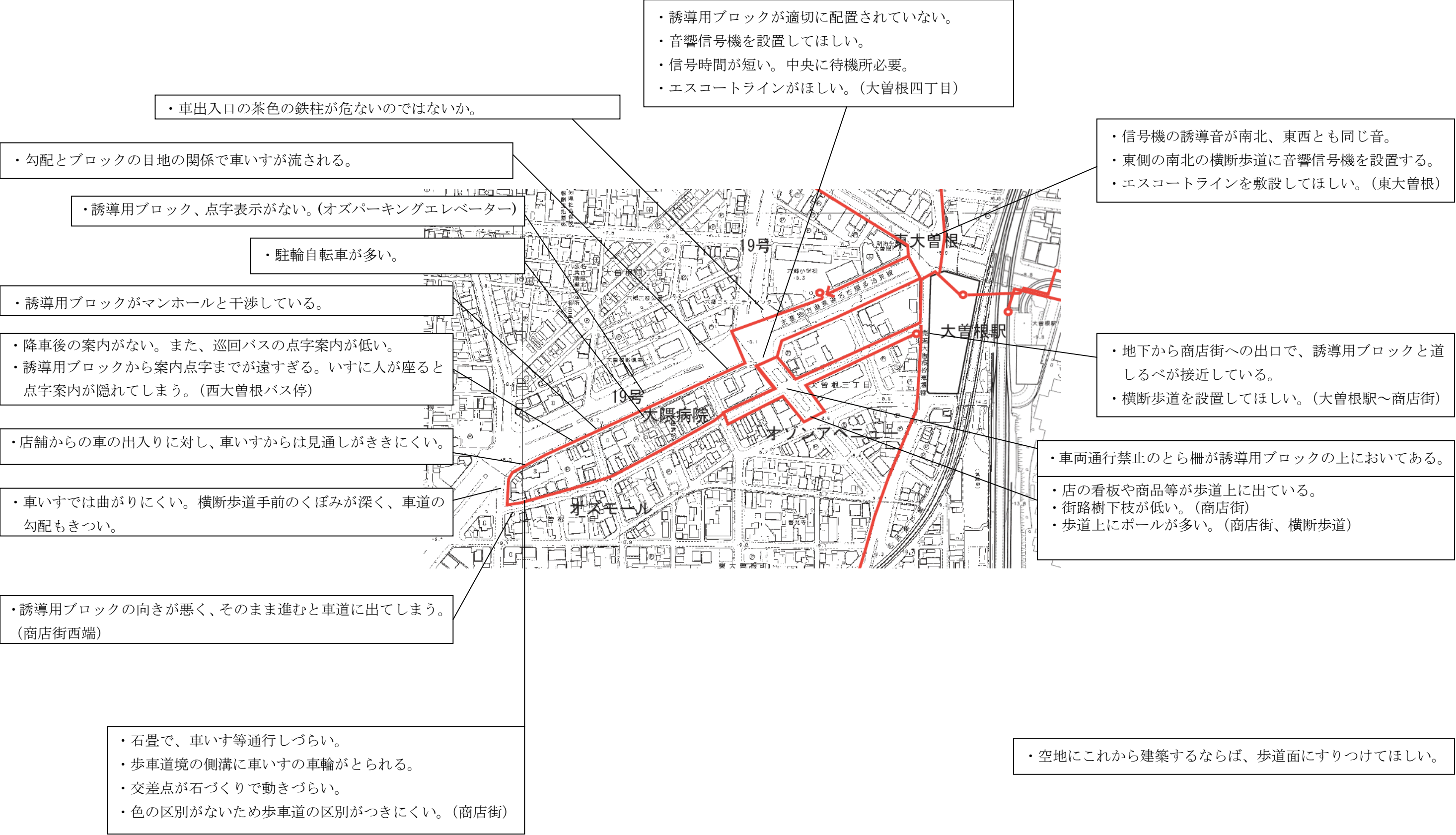
 改札

 階段

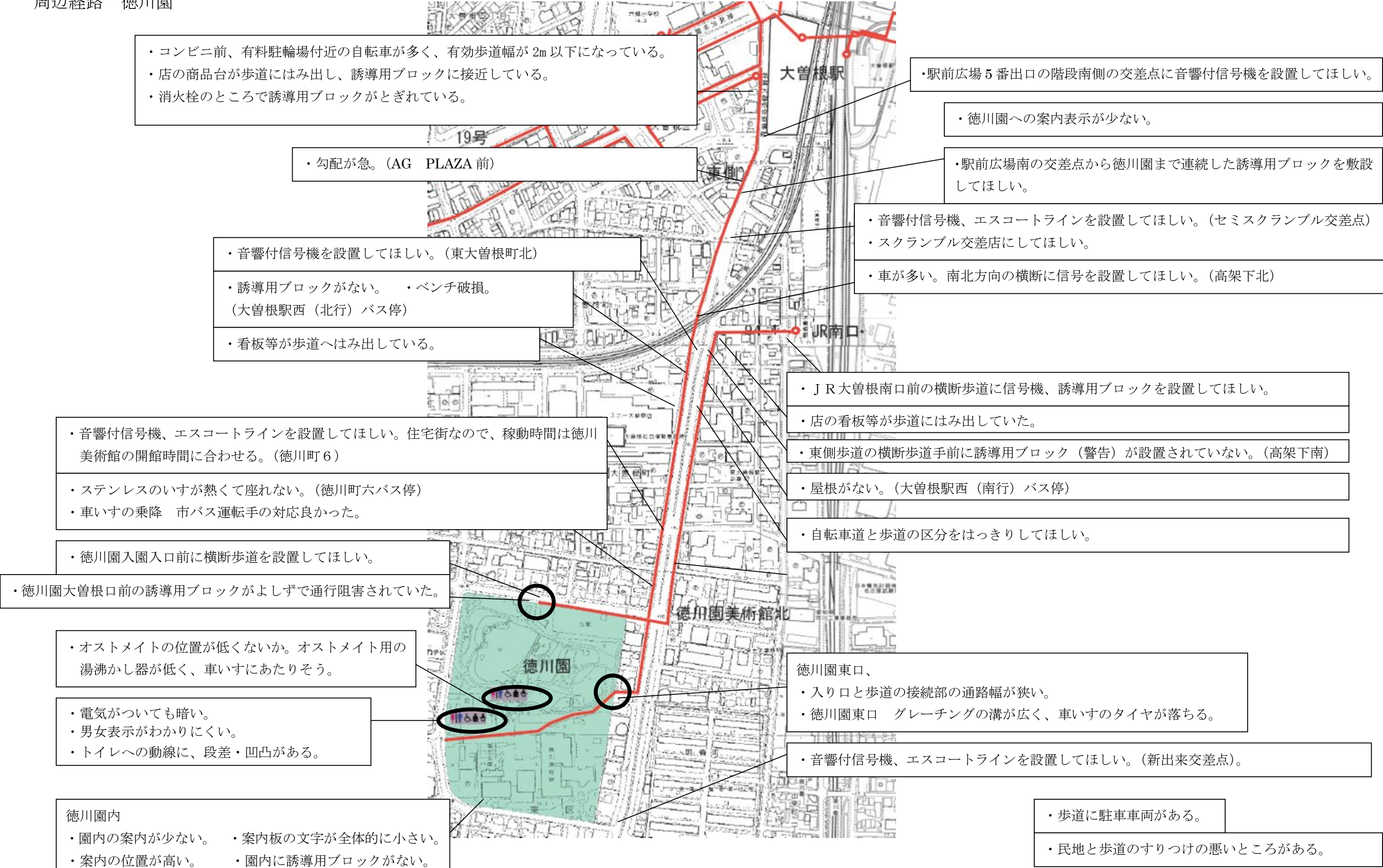
周辺経路 ナゴヤドーム・メッツ大曽根



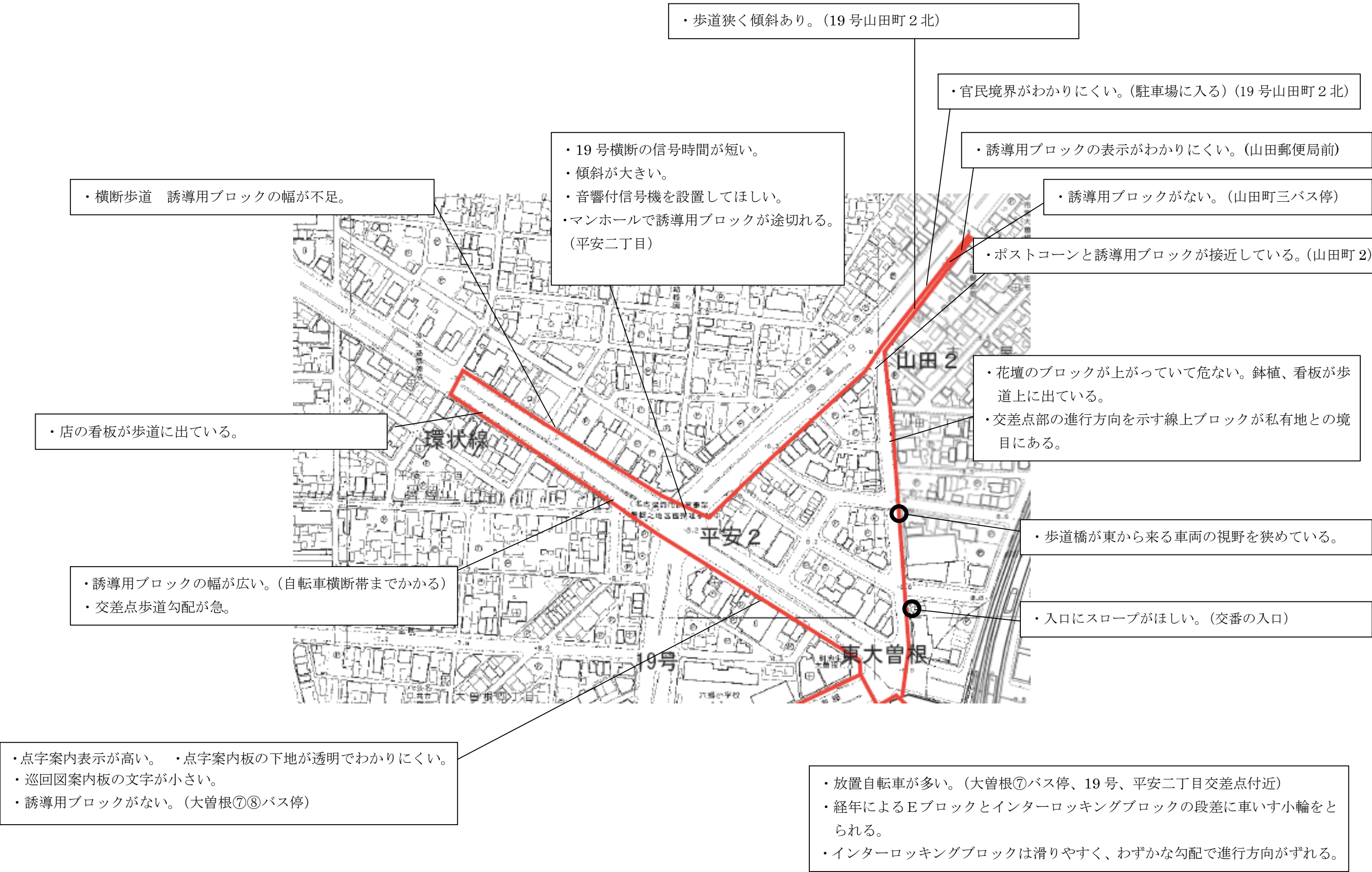
周辺経路 商店街方面



周辺経路 徳川園



周辺経路 大曽根駅北側



◇現地調査（フィールドワーク）の様子

●駅前広場、乗り換え経路踏査の様子



①地下から駅前広場へ



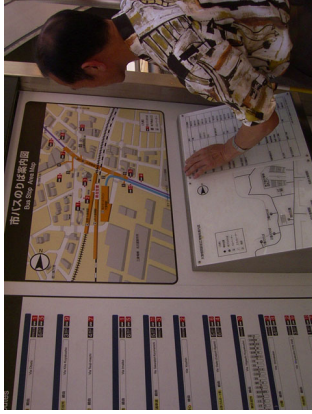
②エレベーターからの案内を検証



③バスターミナルを検証



④バス案内を検証



⑤バス案内（点字等）を検証



⑥バス停を検証



⑦バスターミナルから名鉄へ



⑧大曽根駅前の路上駐輪

●交通施設踏査の様子（名鉄）



①階段を検証



②エレベーターを検証



③券売機を検証

●交通施設踏査の様子（地下鉄）



①トイレ前のスロープを検証



②トイレ内を検証



③案内板を検証



④地下鉄改札までの動線を検証



⑤ホームを検証



⑥地下鉄に乗りし検証

●交通施設踏査の様子（ゆとりーと）



①エレベーターを検証



②点字案内を検証



③点字案内を検証

●交通施設踏査の様子（JR）



①券売機を検証



②トイレを検証



③多目的トイレ内を検証



④多目的トイレ内を検証・体験



⑤エレベーターを検証



⑥ホームを検証



⑦点字案内を検証

●周辺経路踏査の様子



①大曽根駅周辺



②ナゴヤドーム付近



③カルポート東前付近

●周辺経路踏査の様子



④車いすの疑似体験



⑤バス停を検証



⑥セミスクランブル交差点を検証



⑧駅前の路上駐輪



⑨生活関連施設周辺を検証



⑩生活関連施設周辺の路上駐輪



⑪歩道に張り出す店舗の商品台



⑫市バスを検証



⑬徳川園を検証



⑭意見交換会の様子



⑮意見交換会の様子

大 曾 根 駅 地 区 バ リ ア フ リ ー 基 本 構 想

発行年月日 平成 21 年 3 月

編集・発行 名古屋市健康福祉局障害福祉部障害企画課
〒460-8508

名古屋市中区三の丸三丁目1番1号

電話 052(972)2585(ダイヤルイン)

FAX 052(951)3999